

西宮市における公共施設マネジメントに関する
市民アンケート調査

調 査 結 果

平成 24 年 3 月

西 宮 市

目 次

1. 調査の概要	
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の項目	3
(3) 調査の設計	3
(4) 回収結果	4
2. 回答者の属性	5
3. 調査の結果	
問1：公共施設マネジメントの取り組みの認知度	8
問2：公共施設マネジメントの取り組みの認知の機会	9
問3：公共施設の過去1年間の利用の有無、利用目的または利用しない理由	10
問4：公共施設の維持保全・全体最適の手法として最も有効と考える方策	21
問5：公共施設の量を減らすことを検討する場合、対象にすべき施設	25
問6：公共施設マネジメントの取り組みに期待する効果	26
問1～問6の結果のまとめ	27
問7：公共施設マネジメントの取り組みについての自由意見	29
問(その他)：余暇の過ごし方	39
4. 調査票	46

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

西宮市では、これまで人口増加や行政需要に伴い積極的に整備してきた多数の公共施設が、時間の流れとともに老朽化してきており、今後、施設の維持や建替にかかる費用の増加が避けられない状況になっています。

そこで現在、市では、こうした公共施設が抱える課題に対応していくため、「公共施設の全体最適を図るマネジメント」の取り組みを行っており、その第一歩として、平成 23 年 8 月に「西宮市公共施設白書」を作成しました。

この調査は、今後の取り組みを進める上での基礎資料とするため、市民の日常の公共施設の利用状況を把握するとともに、公共施設マネジメントの考え方に対する意識・意見を把握することを目的に実施しました。

西宮市における公共施設マネジメントについて

公共施設をとりまく現状と課題

現在、西宮市には約 48 万人が住んでいます。人口減少時代ではありますが、本市においては、今後もしばらくゆるやかな人口の増加が見られると推計されており、少子高齢化の進行に伴って、社会保障・福祉などのサービスの需要は、一層増えていくことが予想されます。

一方、市の財政は、長引く景気低迷、経済不況の影響もあって、税収が伸び悩む状況が続き、将来的な負担を増やさないためにも、支出の無駄を抑制していくことが求められています。

そのような中、現在、市には公共施設が全体で約 149 万㎡、518 施設あり、そのうち整備後 30 年以上が経過した建物が公共施設全体の 41% を占め、建物・設備の老朽化が進んでいます。

公共施設の機能・サービスの質を維持していくためには、計画的に修繕を行っていくことが不可欠です。しかし、今ある施設全てを修繕、建替えていくとなると、将来的にかかる費用は、平均すると年間約 95 億円となり、厳しい財政状況の中で、市の予算ではとても賄えない規模となります。早期に修繕・建替費用の縮減策に取り組む必要があります。

次のページに続きます

. 公共施設マネジメントの考え方

以上のような状況をふまえて、市では今後、主に次の「 」～「 」の視点から、具体的な対応策としての「公共施設マネジメント」を検討していく必要があると考えています。

. 現状の施設を少しでも長く活用するための

「施設の長寿命化（ ）」

. 人口や行政需要など社会情勢の変化に合わせての

「施設の統廃合、再編成」

. 建物の用途変更や廃止などで不要となる施設の

「転活用やリニューアル」

() 長寿命化とは、通常、一定の期間使用すると建替える建物を、より一層適切に保全し、使用できる期間をさらに延ばすことを言います。

上記「 」～「 」のような方法と合わせて、さらに**効率的な維持管理**などを実施することによって、公共施設にかかる費用全体の削減と、費用負担の平準化（一時期に集中して発生しないようにする）を図っていきたいと考えています。

今後、市では、このような考え方に基づいた「公共施設マネジメント」の実現に向けて、具体的な方向性、基本方針、基本計画等を検討していきます。

「西宮市公共施設白書」は、本庁舎4階施設企画課で配布しているほか、市のホームページでご覧になれます。

(<http://www.nishi.or.jp/contents/00016681000200078.html>)

(2) 調査の項目

- 問1：公共施設マネジメントの取り組みの認知度
- 問2：公共施設マネジメントの取り組みの認知の機会
- 問3：公共施設の過去1年間の利用の有無、利用目的または利用しない理由
- 問4：公共施設の維持保全・全体最適の手法として最も有効と考える方策
- 問5：公共施設の量を減らすことを検討する場合、対象にすべき施設
- 問6：公共施設マネジメントの取り組みに期待する効果
- 問7：公共施設マネジメントの取り組みについての自由意見
- 問(その他)：余暇の過ごし方

(3) 調査の設計

1) 調査地域

市内全域

2) 調査対象

20歳以上75歳以下の西宮市民

3) 標本数

3,500名(住民基本台帳及び外国人登録原票より無作為抽出)

4) 調査方法

郵送配布・回収による調査

5) 調査期間

平成23年11月1日(木)～11月30日(水)

(4) 回収結果

[回収数] 1,407 (回収率 40.2%) うち有効回答 1,402 (回答率 40.1%)

必要回収数について

無作為抽出のアンケート調査では、統計学上精度の高い結果を得るために必要な回収数は、次の数式によって求められます。

$$n = \frac{N}{\left(\frac{1}{k(\quad)} \right) \times \frac{N-1}{P(100-P)} + 1}$$

- n = 必要サンプル数 (必要回収数)
- N = 母集団
= 許容できる誤差の範囲 (±5%)
- k() = 信頼度係数
- P = 母比率 (50%) 最大値

本市の20～75歳人口は平成23年9月末時点で345,617人であり、上記の数式に基づいてこれを母集団とした場合、信頼度を95%として、サンプル誤差を5%とした場合には、必要回収数は384となります。本調査の回収数は1,407であり、信頼度95%の水準に達する回答を得ています。

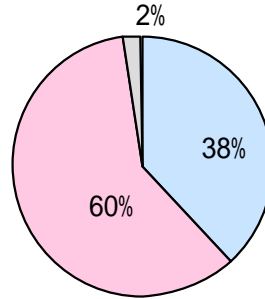
集計結果の表記について

各回答の割合(%)は、小数点以下第1位を四捨五入して表記していません。従って、端数処理の関係から、各回答の割合(%)の合計が100%にならない場合があります。

2. 回答者の属性

(1) 性別

男性は38%(533人)、女性は60%(839人)であり、男女の比率はほぼ4:6になっています。

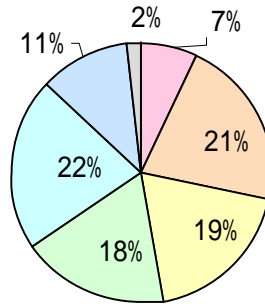


- 男性(533人)
- 女性(839人)
- 無回答(30人)

N=1,402

(2) 年齢

30代以下は28%(396人)、40~50代は37%(520人)、60代以上は33%(461人)となっています。

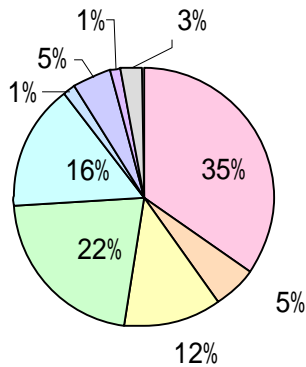


- 20歳代(101人)
- 30歳代(295人)
- 40歳代(266人)
- 50歳代(254人)
- 60歳代(303人)
- 70歳代(158人)
- 無回答(25人)

N=1,402

(3) 職業

「給与生活者」が最も多く(485人)全体の35%を占め、次いで「専業主婦」が多く(302人)22%を占めています。

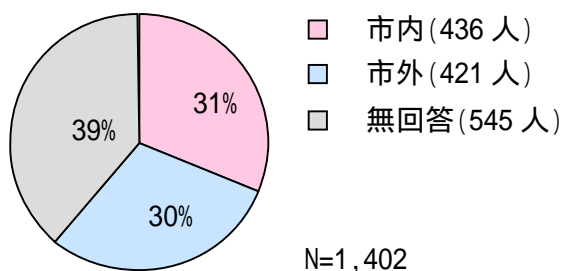


- 給与生活者(勤め人)(485人)
- 自営業(76人)
- 有業主婦(臨時社員・職員・パートなど)(173人)
- 専業主婦(302人)
- 年金生活者(223人)
- 学生(20人)
- 無職(69人)
- その他(14人)
- 無回答(40人)

N=1,402

(4) 就業または就学地

市内は31%(436人)、市外は30%(421人)で、市外のうち最も多いのは大阪市の39%(164人)、次いで神戸市の20%(86人)となっています。

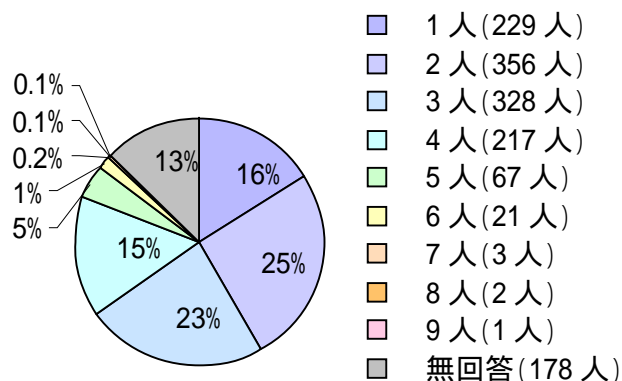


市外の内訳

神戸市	86人	20%
尼崎市	41人	10%
芦屋市	11人	3%
神戸市・芦屋市・尼崎市以外の兵庫県内	36人	9%
大阪府大阪市	164人	39%
大阪市以外のおおさか府	49人	12%
大阪府以外のおおさか県外	22人	5%
無回答	12人	3%

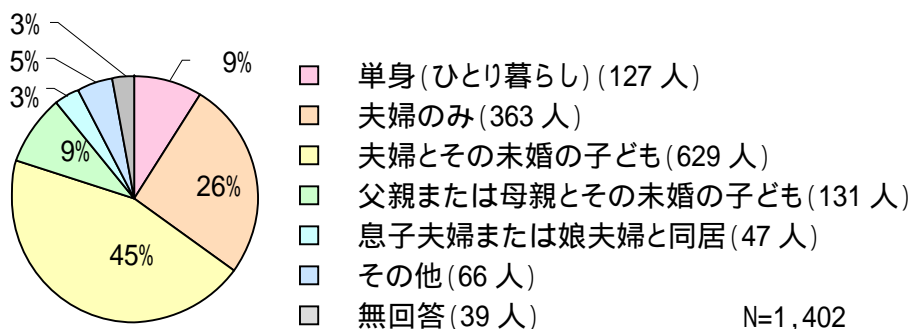
(5) 家族人数

平均すると、1世帯あたり2.70人となっています。



(6) 家族構成

「夫婦とその未婚の子ども」のパターンが最も多く(629人)、全体の45%を占め、次いで「夫婦のみ」が多く(363人)26%を占めています。

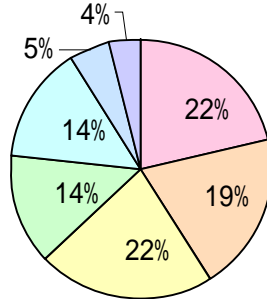


(7) 居住地

回答者の居住地を行政区域別で整理すると、下記のグラフに示す通り、行政区域別世帯数の割合とほぼ同じ構成となっています。

A：行政区域別回答者数

- ・居住地無回答を除く
- 回答者数の比率

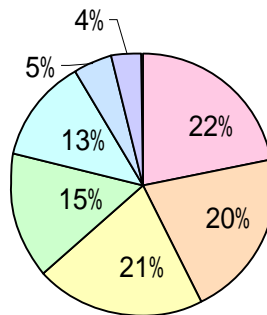


- 本庁北地区 (285 人)
- 本庁南地区 (249 人)
- 鳴尾地区 (289 人)
- 瓦木地区 (181 人)
- 甲東地区 (187 人)
- 塩瀬地区 (71 人)
- 山口地区 (47 人)

N=1,402

B：行政区域別世帯数

- ・平成 23 年 9 月末現在
- 住民基本台帳

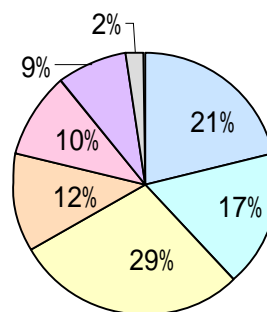


- 本庁北地区 (46,729 世帯)
- 本庁南地区 (43,442 世帯)
- 鳴尾地区 (44,410 世帯)
- 瓦木地区 (32,510 世帯)
- 甲東地区 (27,155 世帯)
- 塩瀬地区 (10,719 世帯)
- 山口地区 (7,466 世帯)

N=212,431

(8) 居住年数

最も多いのは 10 年以上 20 年未満 (398 人) で全体の 29% を占めています。年代を大きく分けると、10 年未満は 38% (535 人)、10 年以上 30 年未満は 41% (567 人)、30 年以上は 21% (269 人) となっています。



- 5年未満 (298 人)
- 5~9年 (237 人)
- 10~19年 (398 人)
- 20~29年 (169 人)
- 30~39年 (147 人)
- 40年以上 (122 人)
- 無回答 (31 人)

N=1,402

3. 調査の結果

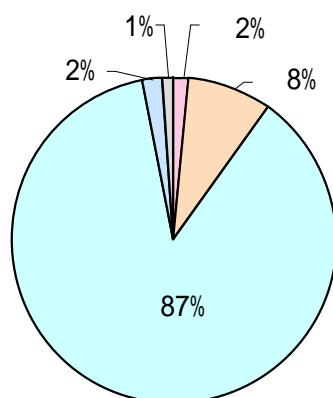
問1：公共施設マネジメントの取り組みの認知度

既に取り組みを知っていた回答者は、全体の1割

「西宮市公共施設白書」を見たことがある回答者は全体の2%（25人）、白書の存在は知らなかったが、取り組みを知っていた回答者は全体の8%（115人）となっています。

既に取り組みを知っていた回答者は、合わせて10%（140人）に留まり、回答者の90%近くが、公共施設マネジメントの取り組みについて、本アンケートを通じてはじめて知ることになったという結果でした。

【問1】西宮市における公共施設マネジメントの取り組みの認知度



- 「西宮市公共施設白書」を見たことがある(25人)
- 白書の存在は知らなかったが、市がこのような検討に取り組んでいることは知っていた(115人)
- 市がこのような検討に取り組んでいることは知らなかった(1,220人)
- その他(27人)
- 無回答(15人)

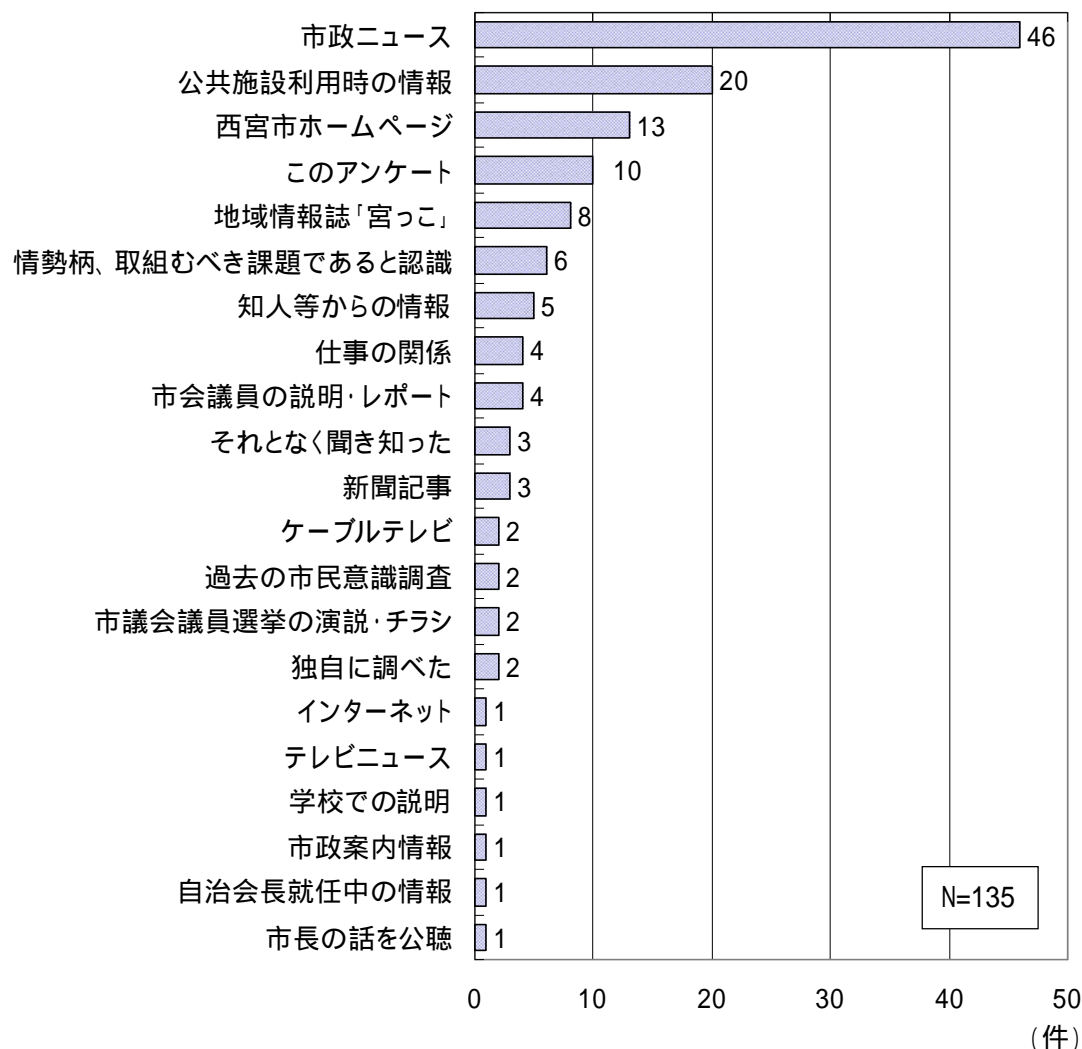
問2：公共施設マネジメントの取り組みの認知の機会

最も多い機会は「市政ニュース」によるもの

公共施設マネジメントの取り組みを知った機会として、さまざまな回答が寄せられました。その中でも顕著に多いのは「市政ニュース」による情報で、本設問の回答数全体（135件）のうち、34%（46件）を占めています（ ）。

続いて、「公共施設（市役所や支所、公民館、生涯学習施設など）を利用した時に知った」という回答や、「市のホームページで知った」という回答が多いです。また、それらと比べると件数は少ないですが、市議会議員のレポートや新聞記事など、また、独自に調べて知ったという回答も見受けられました。

【問2】西宮市における公共施設マネジメントの取り組みの認知の機会



自由意見を分類して、最も多い順に集計しています。なお、その際に「市政ニュースとホームページ」といった複数回答については、個別に1件としてカウントしています。

問3：公共施設の過去1年間の利用の有無、利用目的または利用しない理由

(1) 回答者全体の傾向

市役所・支所や図書館の利用は比較的多いが、その他の施設の利用は少ない

公共施設を過去一年間に利用をしたことがある人の割合は、施設の種類によって大きく異なっています。

「市役所・支所」では回答者全体の84%(1,177人)、「図書館」では48%(679人)を占めています。しかし、それ以外の施設については相対的に少なく、「ホール」で30%(427人)、「博物館・資料館・市民ギャラリー」で20%(284人)、「公民館・市民館」で36%(500人)、「体育館」や「福祉施設」では15%(それぞれ206人、215人)に留まっています。

公共施設の利用目的としては、「市役所・支所」では「各種証明書発行手続」が、「図書館」では「閲覧・借出」が顕著に多い傾向が見られます。また、貸館施設は全般的に、「開催・企画」よりも「参加・観覧」が多い傾向が見られます。

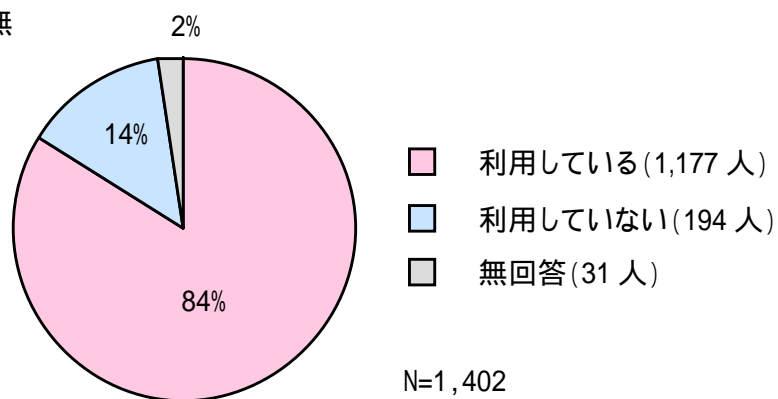
利用しない主な理由は、機会がない、情報が不十分など

公共施設を利用しない理由としては、施設の種類を問わず、回答者の70~90%弱が「利用する機会がない」を挙げています。さらに、図書館を除いて、どこでどのようなサービスが提供されているのか知らないという回答が比較的多いという共通の傾向も見られました。

一方で、施設の老朽化や設備の不備を理由に挙げる回答者は非常に少なく、施設の種類を問わず利用しない人の1%以下となっています。

1) 市役所・支所

利用の有無



利用の目的

利用の目的(複数回答)	回答数(人)	回答率
各種証明書発行手続	1,088	92%
税金や保険料の納付手続	332	28%
生活に関する相談など	53	5%
行政刊行物や資料の閲覧・入手	59	5%
仕事の打合せなど	16	1%
その他	49	4%

N=1,597

利用しない理由

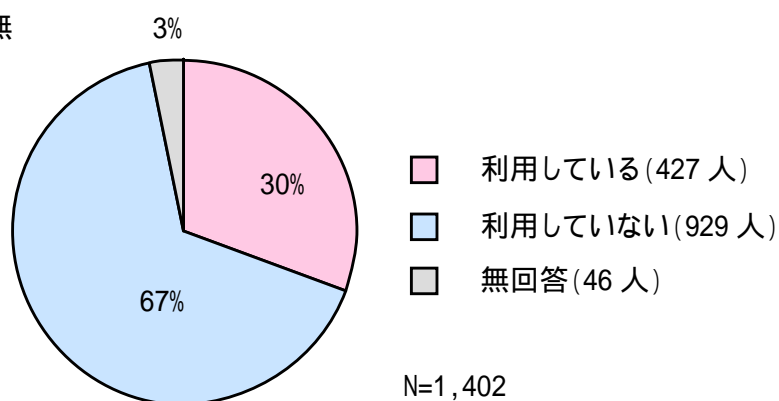
利用しない理由(複数回答)	回答数(人)	回答率
利用する機会がない	170	88%
どんな施設があるのか知らない	24	12%
どんなサービスが利用できるか知らない	24	12%
どんな催しが開催されているか知らない	16	8%
利用の方法が分からない	14	7%
施設の場所が自宅や職場から遠くて不便	6	3%
施設が古い、設備が整っていない	1	1%
申し込みが混んでいて利用しにくい	0	0%
利用料金が高い	1	1%
市の施設以外の施設を利用している	1	1%
その他	5	3%

N=262

利用の目的の回答率は、目的ごとの「利用している」1,177人中の回答数の割合。
 利用しない理由の回答率は、理由ごとの「利用していない」194人中の回答数の割合。

2) ホール

利用の有無



利用の目的

利用の目的(複数回答)	回答数(人)	回答率
演劇や音楽会の開催・出演	82	19%
演劇や音楽会の鑑賞	279	65%
集会・セミナーなどの企画	23	5%
集会・セミナーなどの参加	143	33%
その他	11	3%

N=538

利用しない理由

利用しない理由(複数回答)	回答数(人)	回答率
利用する機会がない	722	78%
どんな施設があるのか知らない	205	22%
どんなサービスが利用できるか知らない	174	19%
どんな催しが開催されているか知らない	258	28%
利用の方法が分からない	82	9%
施設の場所が自宅や職場から遠くて不便	54	6%
施設が古い、設備が整っていない	4	0.4%
申し込みが混んでいて利用しにくい	6	1%
利用料金が高い	2	0.2%
市の施設以外の施設を利用している	24	3%
その他	22	2%

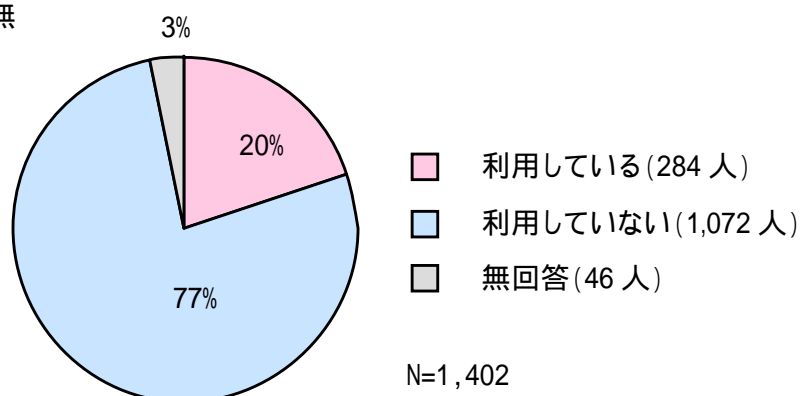
N=1,553

利用の目的の回答率は、目的ごとの「利用している」427人中の回答数の割合。

利用しない理由の回答率は、理由ごとの「利用していない」929人中の回答数の割合。

3) 博物館・資料館・市民ギャラリー

利用の有無



利用の目的

目的	回答数 (人)	回答率
展覧会の観覧	219	77%
講演会・講座などの参加	87	31%
市民ギャラリーの出展	28	10%
その他	6	2%

N=340

利用しない理由

理由	回答数 (人)	回答率
利用する機会がない	803	75%
どんな施設があるのか知らない	252	24%
どんなサービスが利用できるか知らない	172	16%
どんな催しが開催されているか知らない	302	28%
利用の方法が分からない	82	8%
施設の場所が自宅や職場から遠くて不便	79	7%
施設が古い、設備が整っていない	3	0.3%
申し込みが混んでいて利用しにくい	2	0.2%
利用料金が高い	4	0.4%
市の施設以外の施設を利用している	28	3%
その他	27	3%

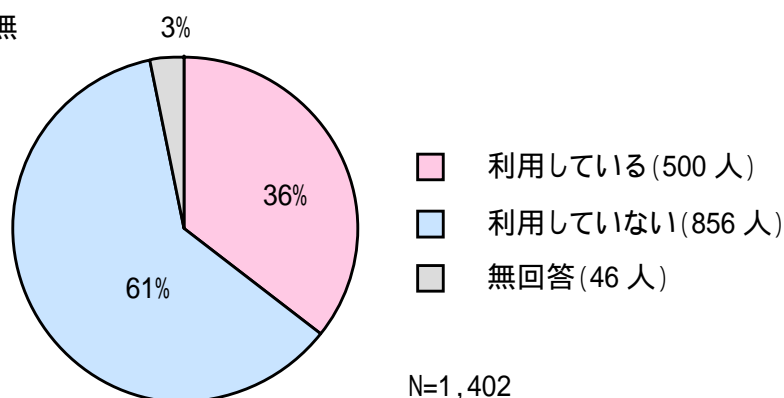
N=1,754

利用の目的の回答率は、目的ごとの「利用している」284人中の回答数の割合。

利用しない理由の回答率は、理由ごとの「利用していない」1,072人中の回答数の割合。

4) 公民館・市民館などの集会施設

利用の有無



利用の目的

目的	回答数 (人)	回答率
地域の集会、行事の企画	124	25%
地域の集会、行事の参加	258	52%
趣味・教養講座の企画	35	7%
趣味・教養講座の参加	182	36%
その他	43	9%

N=642

利用しない理由

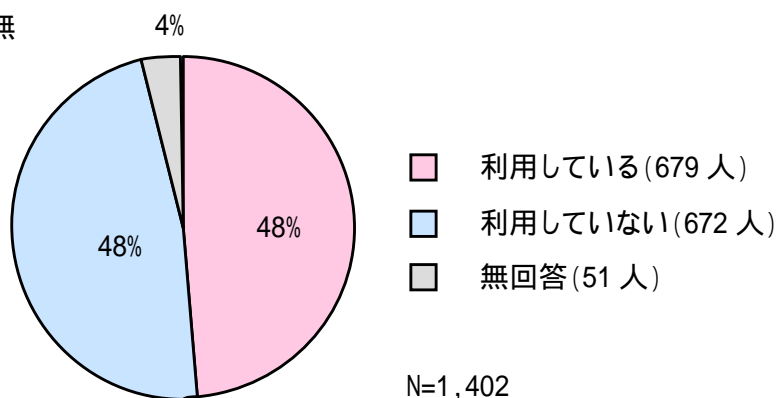
理由	回答数 (人)	回答率
利用する機会がない	686	80%
どんな施設があるのか知らない	114	13%
どんなサービスが利用できるか知らない	124	14%
どんな催しが開催されているか知らない	152	18%
利用の方法が分からない	63	7%
施設の場所が自宅や職場から遠くて不便	23	3%
施設が古い、設備が整っていない	4	0.5%
申し込みが混んでいて利用しにくい	1	0.1%
利用料金が高い	2	0.2%
市の施設以外の施設を利用している	16	2%
その他	21	2%

N=1,206

利用の目的の回答率は、目的ごとの「利用している」500人中の回答数の割合。
 利用しない理由の回答率は、理由ごとの「利用していない」856人中の回答数の割合。

5) 図書館

利用の有無



利用の目的

目的	回答数 (人)	回答率
本や映像の閲覧・借出	595	88%
調べ物(資料探しや調査研究)	174	26%
自習	64	9%
講座・催しの参加	17	3%
その他	10	1%

N=860

利用しない理由

理由	回答数 (人)	回答率
利用する機会がない	466	69%
どんな施設があるのか知らない	30	4%
どんなサービスが利用できるか知らない	24	4%
どんな催しが開催されているか知らない	23	3%
利用の方法が分からない	24	4%
施設の場所が自宅や職場から遠くて不便	100	15%
施設が古い、設備が整っていない	3	0.4%
申し込みが混んでいて利用しにくい	5	1%
利用料金が高い	0	0%
市の施設以外の施設を利用している	17	3%
その他	40	6%

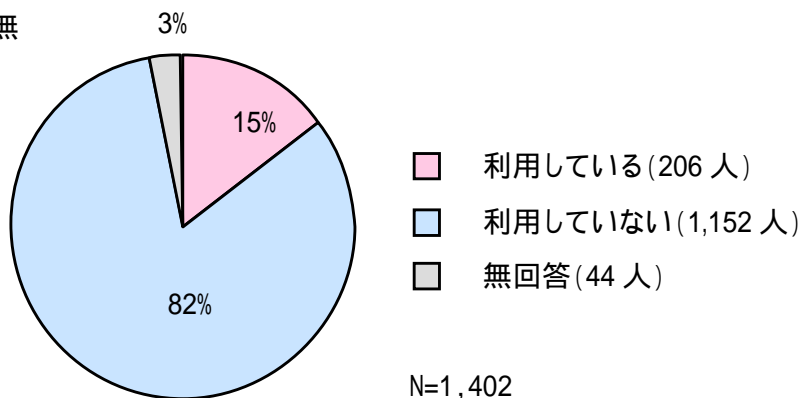
N=732

利用の目的の回答率は、目的ごとの「利用している」679人中の回答数の割合。

利用しない理由の回答率は、理由ごとの「利用していない」672人中の回答数の割合。

6) 体育館

利用の有無



利用の目的

目的	回答数 (人)	回答率
競技大会の開催・出場	68	33%
競技大会の観戦	57	28%
競技の練習	96	47%
レクリエーション	32	16%
その他	20	10%

N=273

利用しない理由

理由	回答数 (人)	回答率
利用する機会がない	920	80%
どんな施設があるのか知らない	100	9%
どんなサービスが利用できるか知らない	117	10%
どんな催しが開催されているか知らない	124	11%
利用の方法が分からない	97	8%
施設の場所が自宅や職場から遠くて不便	85	7%
施設が古い、設備が整っていない	8	1%
申し込みが混んでいて利用しにくい	12	1%
利用料金が高い	5	0.4%
市の施設以外の施設を利用している	24	2%
その他	41	4%

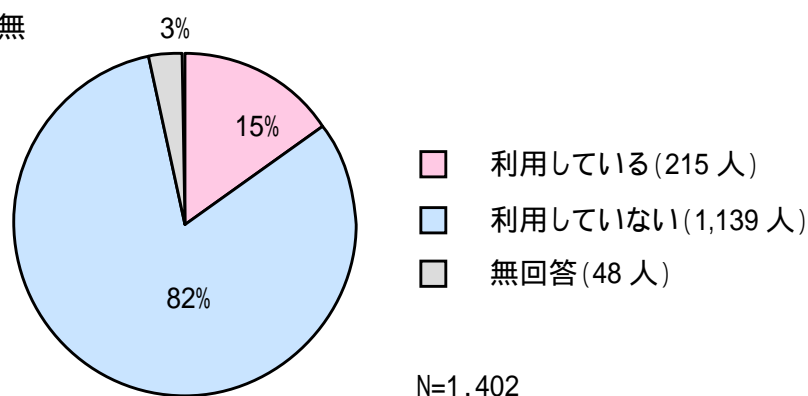
N=1,533

利用の目的の回答率は、目的ごとの「利用している」206人中の回答数の割合。

利用しない理由の回答率は、理由ごとの「利用していない」1,152人中の回答数の割合。

7) 福祉施設

利用の有無



利用の目的

目的	回答数 (人)	回答率
託児サービスの利用	30	14%
子育てに関する相談・交流など	62	29%
高齢者支援サービスの利用	48	22%
障害者支援サービスの利用	35	16%
福祉ボランティアへの参加	40	19%
その他	34	16%

N=249

利用しない理由

理由	回答数 (人)	回答率
利用する機会がない	933	82%
どんな施設があるのか知らない	157	14%
どんなサービスが利用できるか知らない	143	13%
どんな催しが開催されているか知らない	102	9%
利用の方法が分からない	78	7%
施設の場所が自宅や職場から遠くて不便	33	3%
施設が古い、設備が整っていない	2	0.2%
申し込みが混んでいて利用しにくい	2	0.2%
利用料金が高い	0	0%
市の施設以外の施設を利用している	7	1%
その他	37	3%

N=1,494

利用の目的の回答率は、目的ごとの「利用している」215人中の回答数の割合。

利用しない理由の回答率は、理由ごとの「利用していない」1,139人中の回答数の割合。

(2) 世代別の傾向

子育て世代は図書館、体育館、集会施設など、高齢世代は文化施設、集会施設の利用が比較的多い

公共施設を過去一年間に利用をしたことがある人の割合を、世代別に集計すると、次のような特徴が見られました。

20歳代、50歳代では、市役所・支所や図書館を除き、全般的にその他の世代と比べて、公共施設の利用がやや少ない傾向が見られます。

30～40歳代(概ね子育て世代)では、図書館や体育館(30歳代では集会施設、40歳代ではホールも)の利用が比較的多いです。

60歳代以上の高齢世代はホール、博物館・資料館・市民ギャラリーといった文化施設や、集会施設の利用が比較的多いです。

なお、博物館・資料館・市民ギャラリーは、年齢層が上がるほど利用者の数が多くなる傾向が見られ、一方、図書館では30歳代をピークに、年齢層が上がるほど利用者の数が少なくなる傾向が見られます。

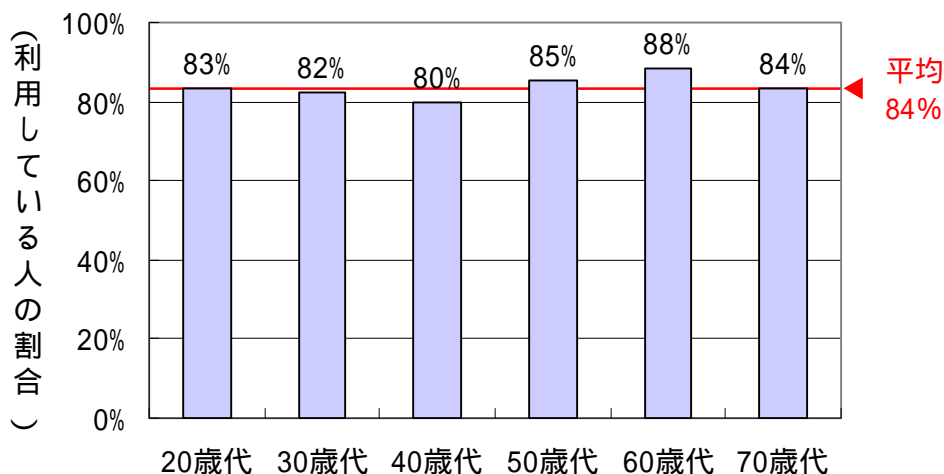
福祉施設は、40歳代以下は概ね子育て支援サービスを利用、50歳代以上は概ね高齢者支援サービスを利用しており、各々の世代に合った傾向が見られる中で、福祉ボランティアへの参加の割合は、50歳代以上に多い特徴が見られます。

【問3】世代別：過去1年間に施設を利用している人の割合

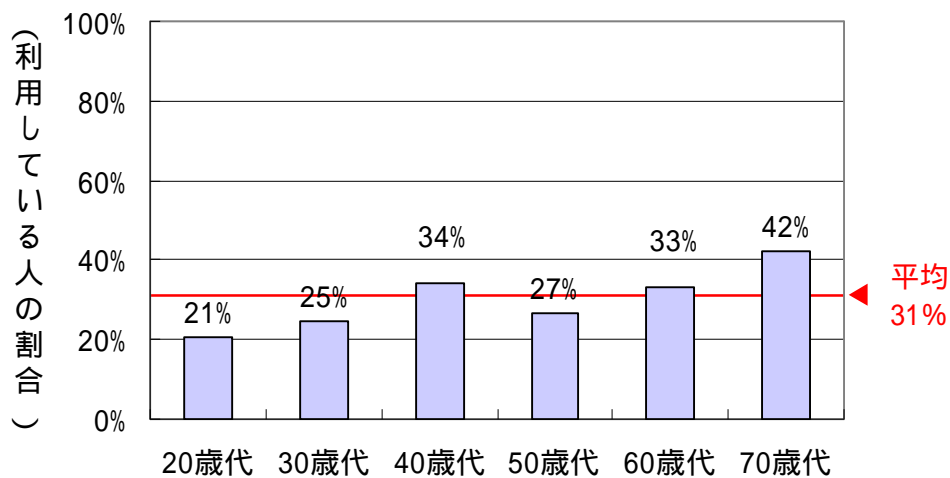
- ・回答者全員を対象に、世代別に「利用している」の回答率を算定。
(「福祉施設」は別途、利用サービス別に集計。後述)

それぞれ、	20歳代 = 101人中	30歳代 = 295人中	40歳代 = 266人中
	50歳代 = 254人中	60歳代 = 303人中	70歳代 = 158人中

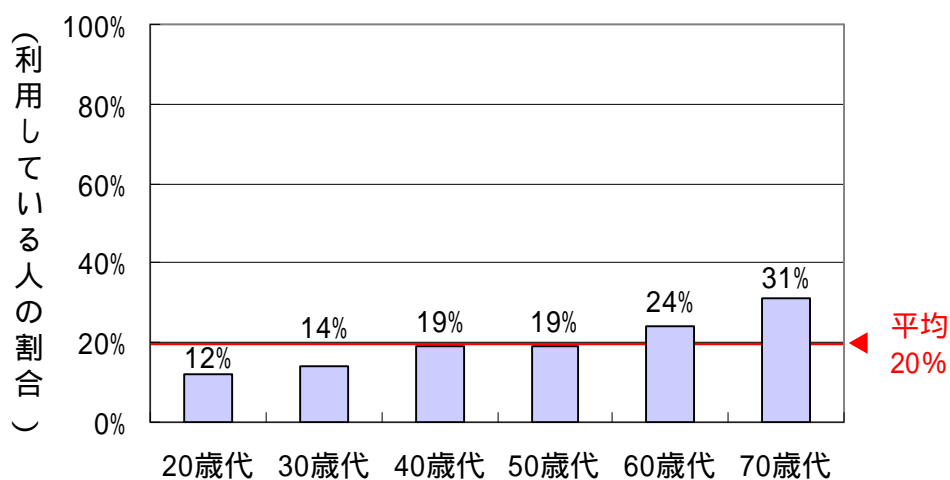
市役所・支所



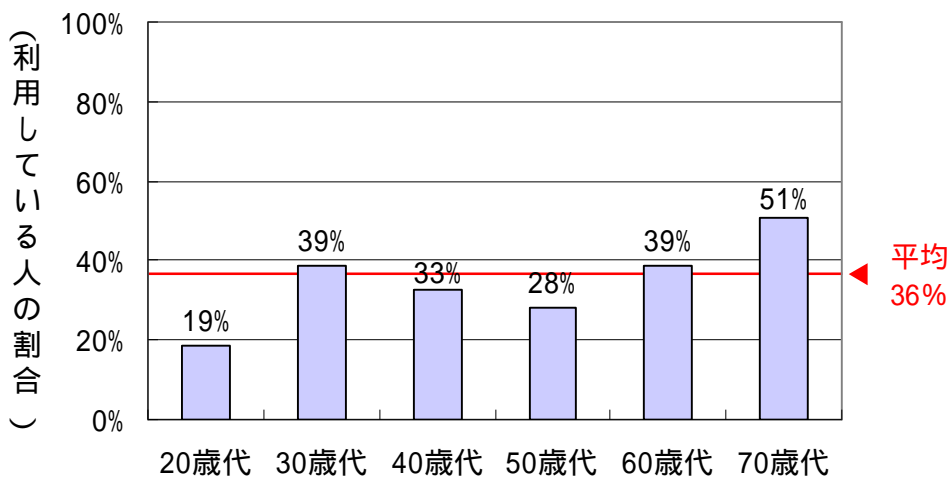
ホール



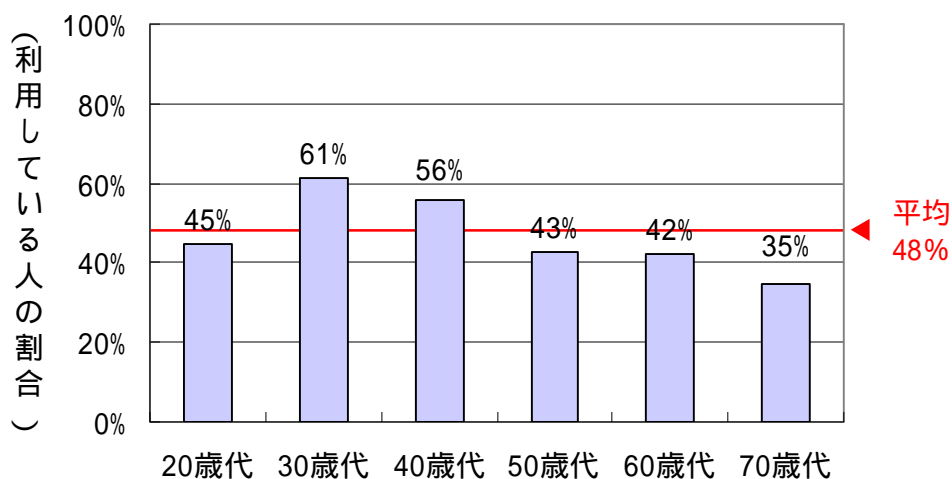
博物館・資料館・市民ギャラリー



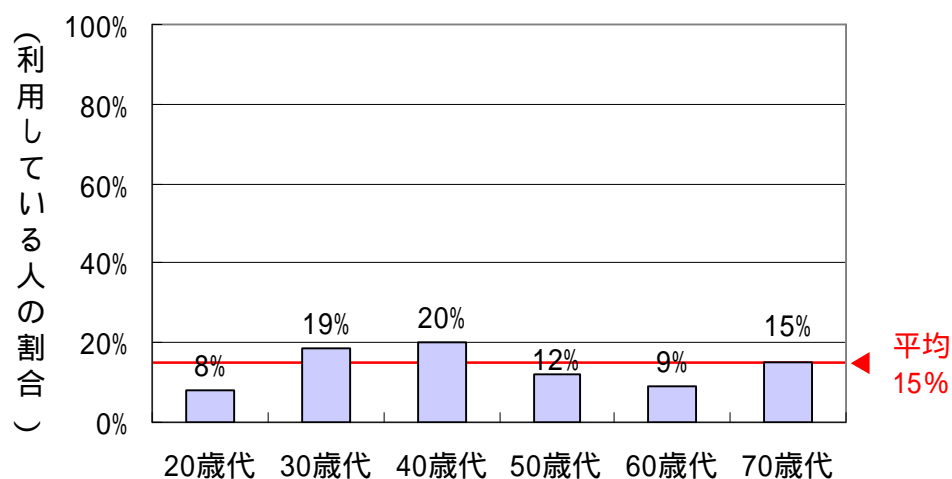
公民館・市民館などの集会施設



図書館



体育館



福祉施設（「利用している」回答者を対象に、選択肢別に回答率を算定）

それぞれ、 20歳代 = 12人中 30歳代 = 79人中 40歳代 = 32人中
 50歳代 = 32人中 60歳代 = 33人中 70歳代 = 25人中

選択肢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
1. 託児サービスの利用	17%	23%	25%	3%	0%	4%
2. 子育てに関する相談・交流など	58%	51%	28%	13%	3%	4%
3. 高齢者支援サービスの利用	0%	5%	6%	38%	39%	64%
4. 障害者支援サービスの利用	25%	10%	13%	25%	27%	8%
5. 福祉ボランティアへの参加	8%	9%	6%	22%	39%	36%

問4：公共施設の維持保全・全体最適の手法として最も有効と考える方策

(1) 回答者全体の傾向

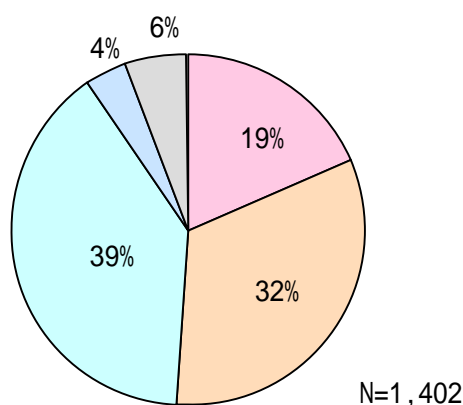
回答者全体では、総量縮減を最も有効とする傾向が高い

公共施設マネジメントの方策として、「施設の長寿命化を図り、建替費用を軽減すること」「施設を効率的に利用し、維持管理費用を軽減すること」「施設の量を減らし、維持管理や修繕・建替の費用を削減すること」のうち、最も有効と考える方策について選んでいただきました。

回答者が考える最も有効な方策としては、「施設の量を減らし、維持管理や修繕・建替の費用を削減すること（総量縮減）」が最多（554人）となっており、全体の39%を占めています。次いで、「維持管理の効率化」（32%、457人）「長寿命化」（19%、260人）の順になっています。

「その他」としては、主に「全ての方策をバランスよく推進すべき」や「利用状況などから必要、不要をよく見極めるべき」「福祉関連の施設の整備を重視すべき」といった意見の他、「民営化を推進すべき」「他の自治体と施設を共有すべき」「複合施設を建設して、機能を集中させるべき」「収益力を強化するべき」などの意見が寄せられました。

【問4】公共施設の維持保全・全体最適の手法として最も有効と考える方策



- 施設の長寿命化を図り、建替費用を軽減すること(260人)
- 施設を効率的に利用し、維持管理費用を軽減すること(457人)
- 施設の量を減らし、維持管理や修繕・建替の費用を削減すること(554人)
- その他(52人)
- 無回答(79人)

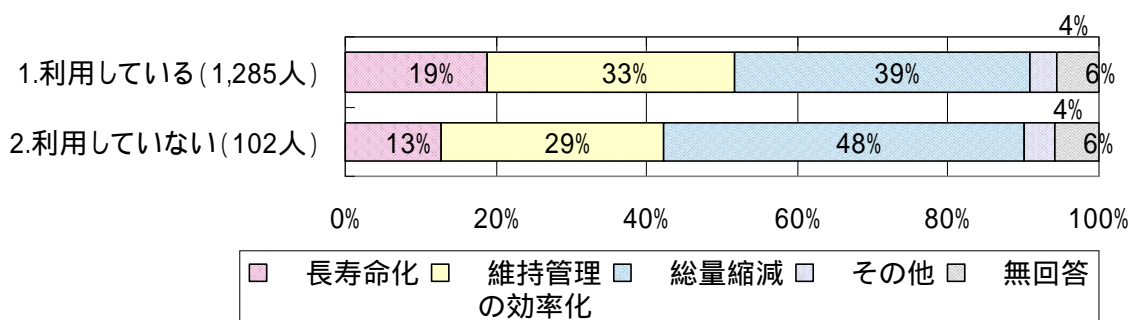
(2) 公共施設の利用の有無による傾向

公共施設を利用している人は、利用していない人よりも、長寿命化や維持管理の効率化を有効と考える人が比較的多い

前のページに示した通り、全体の傾向としては、「総量縮減」を有効とする意見が最も多いという結果が見られました。これをさらに「過去1年間に公共施設を利用している人」と「利用していない人」に分けて集計を行うと、公共施設を利用していない人の方が、「総量縮減」を最も有効な方策として考える回答者の割合が高いという特徴が見られました。

1) 公共施設全体

「総量縮減」を最も有効と考える人の割合は、過去1年間に本市の公共施設を少なくとも1施設以上利用している人(1,285人)では39%(503人)であるのに対し、どの施設も全く利用していない人(102人)では48%(49人)になっています。



(選択肢を次のように簡略化して表記しています)

施設の長寿命化を図り、建替費用を軽減すること
= 長寿命化

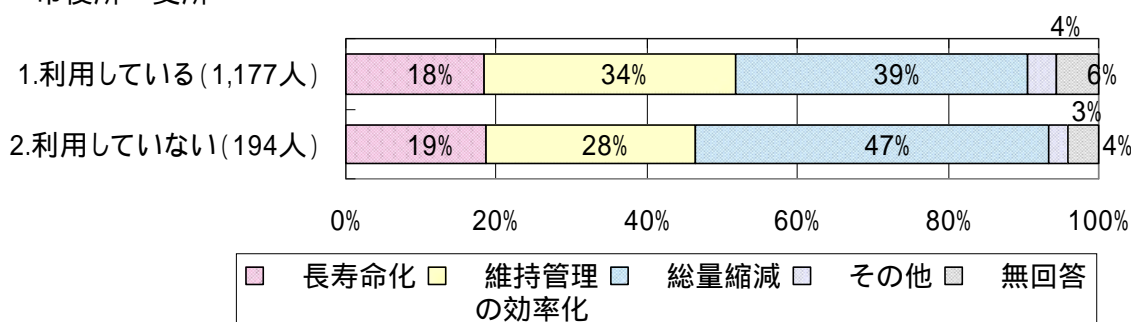
施設を効率的に利用し、維持管理費用を軽減すること
= 維持管理の効率化

施設の量を減らし、維持管理や修繕・建替の費用を削減すること
= 総量縮減

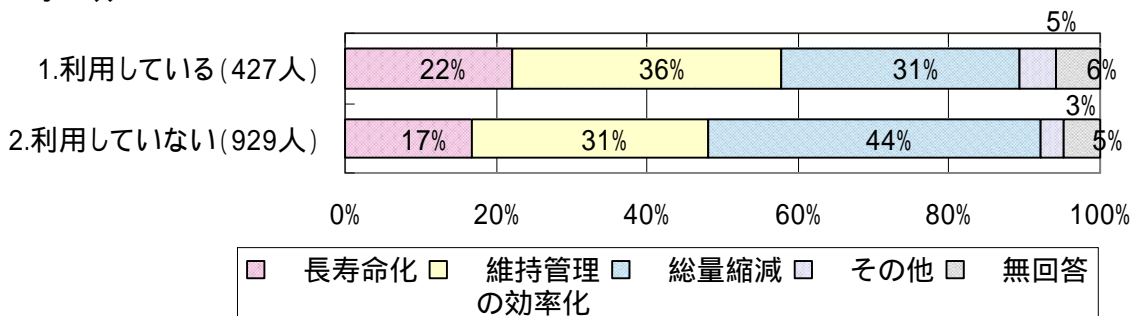
2) 公共施設の種別別

施設の種別を問わず、公共施設を利用している人は、「総量縮減」以外を最も有効な方策として考える回答者の割合が、利用していない人に比べて高い傾向が見られます。中でも、ホール、博物館等、集会施設、福祉施設などでは、「維持管理の効率化」が「総量縮減」を上回る傾向が見られます。

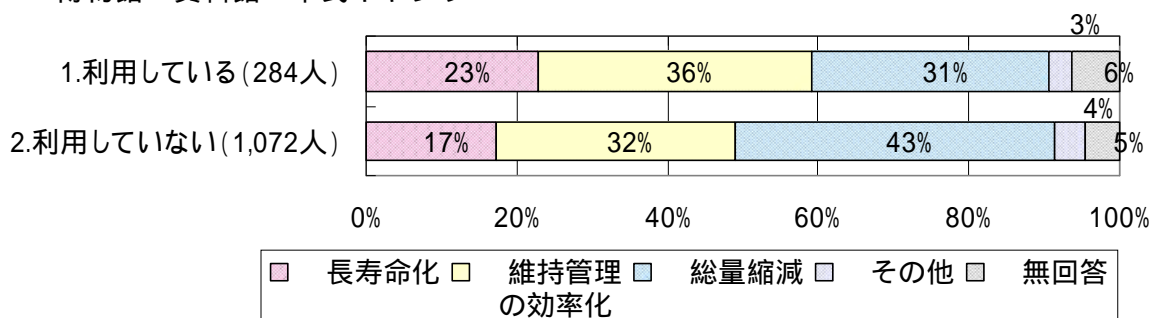
市役所・支所



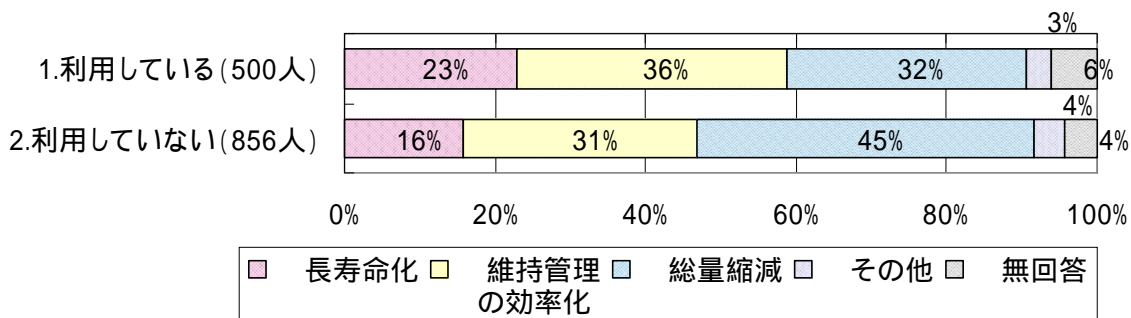
ホール



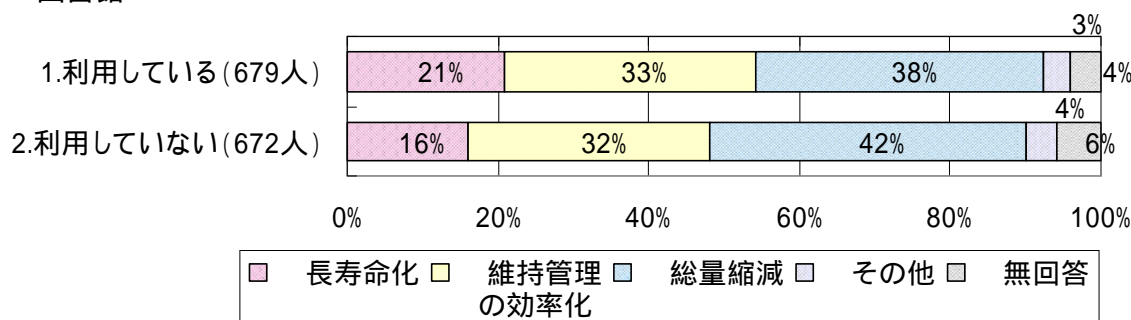
博物館・資料館・市民ギャラリー



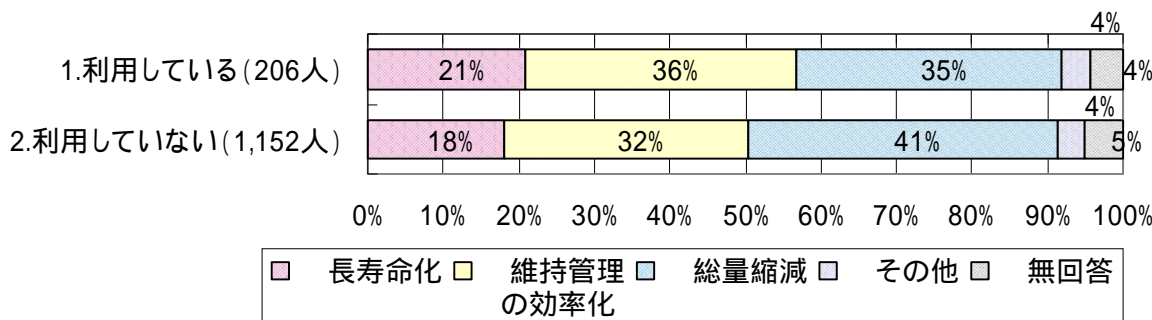
公民館・市民館などの集会施設



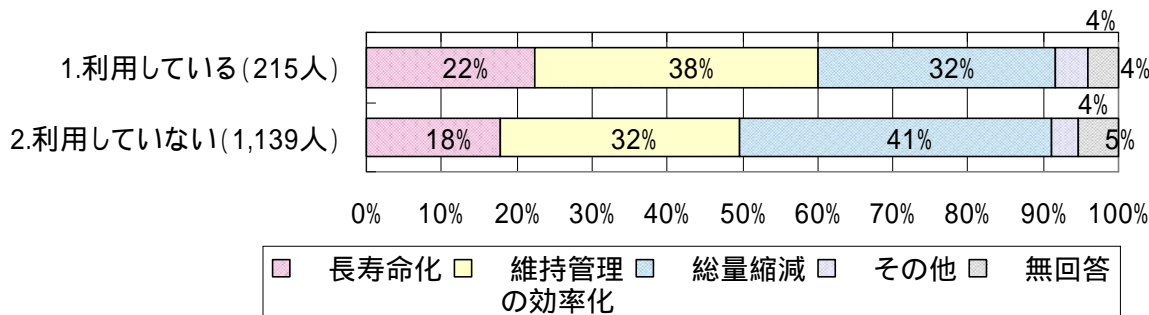
図書館



体育館



福祉施設



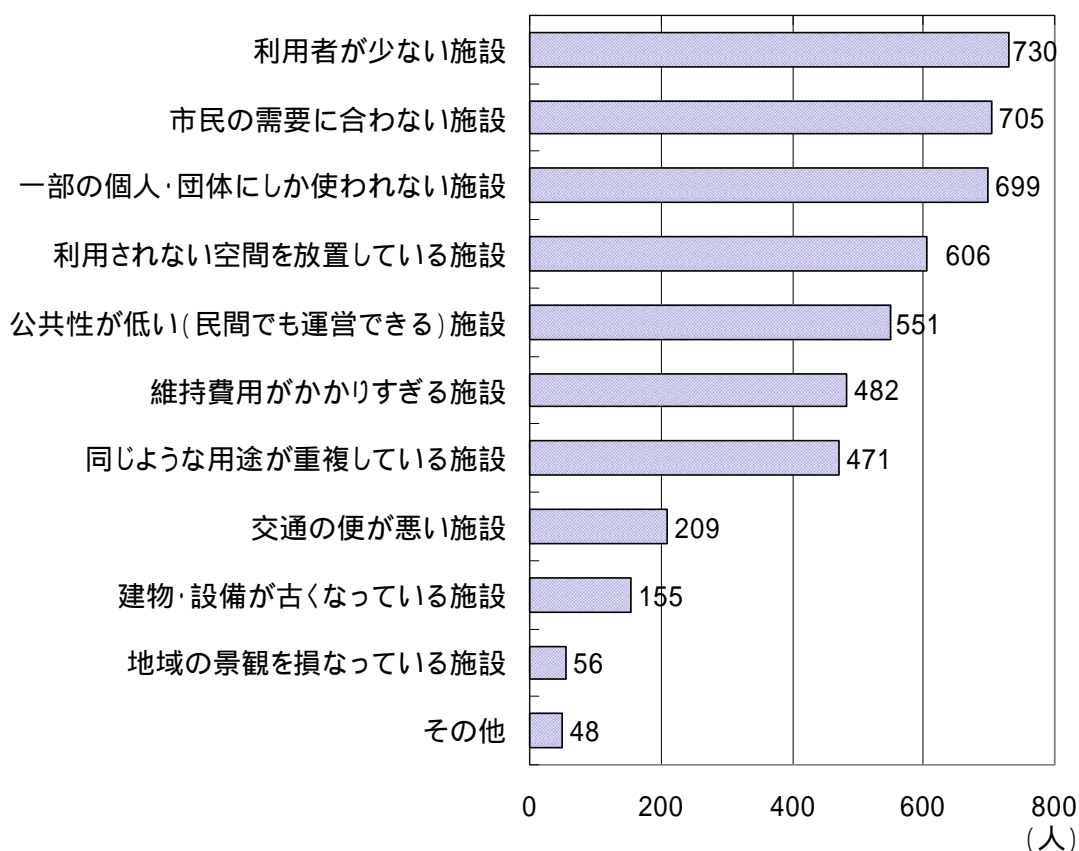
問5：公共施設の量を減らすことを検討する場合、対象にすべき施設

回答者の約半数が「利用率が低く、需要に合わない施設」

総量縮減の対象にすべき施設としては、回答者全員（1,402人）中52%（730人）が「利用者が少ない施設」を挙げています。続いて多い順に、「市民の需要に合わない施設」が50%（705人）、「一部の個人・団体にしか使われない施設」が同じく50%（699人）、「利用されない空間を放置している施設」が43%（606人）となっています。

つまり、市民の需要と施設の供給量のバランスをふまえて、利用率が低く、広く市民に有効活用されていない施設については、量を減らす対象とすべきではないかとする意見が比較的多数を占めています。

【問5】公共施設の量を減らすことを検討する場合、対象にすべき施設
（上位順。それぞれの項目について、1,402人中の回答数）



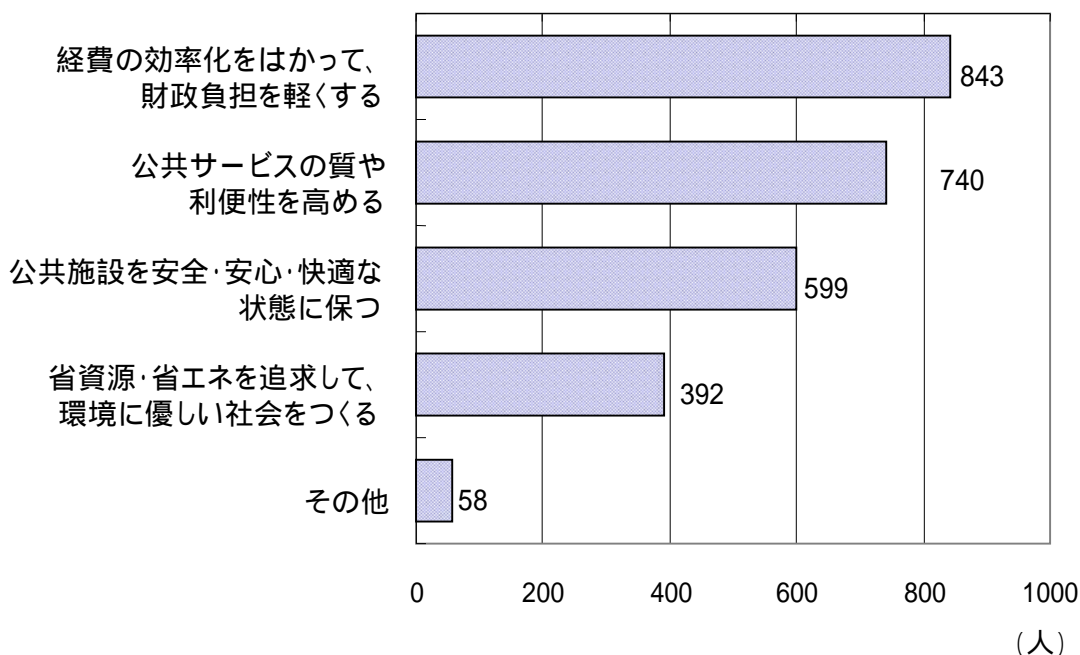
問6：公共施設マネジメントの取り組みに期待する効果

最も期待が大きいのは「財政負担の軽減」

公共施設マネジメントの取り組みに期待する効果としては、「経費の効率化をはかって、財政負担を軽くする」への回答が最も多く、回答者全員の60%（843人）が回答しています。続いて、「公共サービスの質や利便性を高める」が53%（740人）、「公共施設を安心・安全・快適な状態に保つ」が43%（599人）、「省資源・省エネを追求して、環境に優しい社会をつくる」が28%（392人）の順になっています。

【問6】公共施設マネジメントの取り組みに期待する効果

（上位順。それぞれの項目について、1,402人中の回答数）



問1～問6の結果のまとめ

(問1：公共施設マネジメントの取り組みの認知度 ～ 問2：認知の機会)

公共施設マネジメントの取り組みを知っている人の割合は全体の1割で、その多くは市政ニュースによるものでした。今後はさらに、市の取り組みをより広く情報発信して、市民との共有を図っていくことが求められます。

(問3：公共施設の過去1年間の利用の有無、利用目的または利用しない理由)

市役所・図書館以外の公共施設は、相対的に利用者が少ないという現状が見られました。利用しない理由としては、機会がないという理由が非常に多く、また、情報が不十分といった要素も見受けられました。市民の財産としての公共施設の価値を高める上では、利用機会を高める工夫や、施設に関する情報発信を強化することも必要であると考えられます。

一方、市民の特性によって、個々の公共施設の利用度にも異なる特徴が見られました。市民にとって必要な施設を見極めていく上では、市民のニーズを的確に把握していくことが重要であると考えられます。

(問4：公共施設の維持保全・全体最適の手法として最も有効と考える方策)

回答者全体では、総量縮減を最も有効とする傾向が高いですが、公共施設を利用している人は、利用していない人よりも、長寿命化や維持管理の効率化を有効と考える人が比較的多いという特徴が見られました。

公共施設全体の維持・更新にかかる費用を軽減していく上では、総量の縮減を図ることを前提としながらも、市民に必要とされるサービスを維持するように心がけて、存続すべき施設について効率的な維持管理や、適切な保全を行うことで、全体最適を図っていくことが求められていると考えられます。

(問5：公共施設の量を減らすことを検討する場合、対象にすべき施設)

回答者の約半数が、広く市民全般の利用が少なく、需要に合わない施設を減らすべきと認識している傾向が見られました。

施設総量の縮減の検討にあわせて、一方で維持すべき施設の保全の検討を行うにあたっては、市民や社会のニーズに的確に応え、施設がより有効的に活用されるための、ハード・ソフト両面からの方策が求められていると考えられます。

(問6：公共施設マネジメントの取り組みに期待する効果)

期待する効果として最も大きいのは、「財政負担の軽減」でした。

財政負担の軽減を図ることは、社会経済状況の変化の中で、時代の要請でもあり、市民が求める効果としても、特に重要な要素として捉えられています。今後とも、この点を念頭において、将来負担の軽減に寄与する効率的な行政運営を進めていくことが求められます。

問7：公共施設マネジメントの取り組みについての自由意見

西宮市における公共施設マネジメントの取り組みについて、自由意見を求めたところ、回答者のほぼ3人に1人という非常に多数の回答をいただきました。具体的な意見を寄せてこられた回答者が多く、本テーマに関する市民の関心の高さが伺えました。アンケート結果をまとめるにあたり、いただいた意見を受けて、市としてどのような基本姿勢で今後の取り組みを行うかについて、明確に示していく必要があると考えました。

回答の内容は多岐にわたり、それらを分類したところ、公共施設マネジメントの方向性として考えられる要素が幅広く取り上げられていました。そこで、結果の取りまとめにあたっては、それぞれの要素(下記キーワード)で分類した回答群の中から代表的な意見を掲載するとともに、意見をふまえた上で、市の基本姿勢を示すことにしました。

～公共施設マネジメントの方向性のキーワード～

- (1) 維持管理の適正化・効率化
- (2) 施設性能の適正化・効率化
- (3) 施設機能の適正化・効率化
- (4) 施設総量の適正化・効率化
- (5) 効率的な行政運営
- (6) 市民ニーズの把握
- (7) 情報発信の強化
- (8) サービス低下の防止
- (9) 社会ニーズの把握

(1) 維持管理の適正化・効率化

～ 主な意見 ～

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・ 建替費用など一時的なものだけでなく、毎年掛かる固定費（管理費、人件費等）の削減も大切だと思います。</p> |
| <p>・ 現在、公共施設を利用できる生活パターンにはなっていないので活用しきれませんが、それぞれの施設が、各個人が必要になれば重要になるので、縮小、削減より効率的運営・運用を期待します。</p> |
| <p>・ 予算に占める維持管理費用を年度毎にできるだけ平準化することで、財政の将来的な見通しをやすくすることが重要であるように思える。</p> |



～ 市の基本姿勢 ～

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・ 今後、公共施設の最適な運用を進めるにあたり、今まで以上に施設管理水準の適正化や効率化に取り組んでいきたいと考えます。</p> <p>・ 公共施設の日常維持管理業務を効率的に実施することで、経常的経費の圧縮を図るとともに、施設の状態を良好に保つことで、利用者に対する安全・安心・快適性を高めます。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(2) 施設性能の適正化・効率化

～ 主な意見 ～

<p>・今ある施設を修理しながら長く使って、建替の時期になったら本当に建替が必要かを前もって検討すべきと思います。</p>
<p>・建物や機器を含め耐用年数、メンテナンスを定め、最大値と最小値を示し、計画的なメンテナンスを行い、最大値に近づける努力をすべきと思います。</p>
<p>・もう施設は十分あると思います。 耐用年数×1.5 ぐらいは活用して下さい。</p>
<p>・古い建物の延命も大切と思いますが、昔の設計の建物は耐震性等大丈夫なのか不安に思います。</p>
<p>・長寿命化については、その中味が大切で、市民の安全に軸足を置いた施策としてほしい。</p>
<p>・修繕、建替時には、高齢者に優しい施設にして欲しい。(例) バリアフリー、エレベーター完備。</p>
<p>・財政難ゆえの施設数の減少は反対。本当に不要なもの、近くで類似の物があれば統廃合を行い、長寿命化、省エネ化を推進し、維持コストを低減することが最優先と考えます。</p>



～ 市の基本姿勢 ～

<p>・今後、人口減少や高齢化社会などの環境変化を迎えたとしても、本当に必要な公共施設はこれからも継続して利用していくべきであると考えます。</p> <p>・中長期的視点から計画的な保全整備を実行し、公共施設を管理していくことで、維持・更新の合理化を図るとともに、施設性能の改善やエネルギー効率の向上を実現し、施設の長寿命化を図ります。</p>

(3) 施設機能の適正化・効率化

～ 主な意見 ～

・利用されない空間を放置しているなどの無駄を無くすことが一番先だと思います。
・公民館などの空いている部屋を文化教室や保育等に利用可能とし、利益で運営できる様に努力すべき。
・使用されていない施設をリノベーションやリフォームなどして、待機児童対策に役立ててほしい。
・利用状況の低いものは結合、共有化して効率を上げることが重要。汎用性とユーザビリティを高めることで効率は上がるはず。
・スライド式の壁などを取り入れて、すべての部屋が色々利便性のある部屋へ変更できるような工夫を考えては。
・同じような用途が重複している施設を減らすだけでなく、一つの建物にいくつかの施設をまとめるのもよいと思う。
・小さい施設を点々と・・・ではなく、「そこに行けば何でもできる」というような大きな施設が市内の数箇所があり、駐車や駐輪スペースもしっかりあれば、各世代の方が利用しやすくなるのでは・・・と思います。



～ 市の基本姿勢 ～

・今後、公共施設の最適な保全・整備を進めるにあたり、施設を有効に利活用できる方策についても取り組んでいきたいと考えます。
・市民・地域の需要等に照らして有効活用されていない施設や、非効率な機能配置の施設に対して、将来的な需要も視野に入れながら、用途転換、再配置、複合化などによって施設機能の最適化を図ります。

(4) 施設総量の適正化・効率化

～ 主な意見 ～

<p>・財政難であれば、民間に売却する、または縮小するなど、身の丈にあったものにすべきだと思います。</p>
<p>・築後30年経過施設を対象に、この際 unnecessary な建物は無くす検討を進めて下さい。(利用者が少ない、重複など)</p>
<p>・「量を減らす」の中身について、規模を小さくすることも含めて考えて欲しい。</p>
<p>・将来の人口減少を考え、統廃合の検討が必要と思います。地域第一ですが、人口減少の中で統廃合を考えざるを得ないものと思われます。 交通の便の良い所に一部集約する、2階建を3～4階建にするなども検討してみてもどうでしょうか？</p>
<p>・一自治体で様々な施設を全て持っていればそれに越したことがないが、歳入以上の歳出をし続けてまで、施設を作り続けてどうするのか。周辺の自治体との共同利用も視野に入れての検討も必要と考える。</p>
<p>・類似の箱ものは総廃合し、管理者の節約をはかるべき。</p>
<p>・利用者が少ない施設は統合した方が良いと思います。民間の会社のノウハウも生かしつつ、ムダにならないような運営が必要かと思います。</p>



～ 市の基本姿勢 ～

<p>・今後、施設の最適な保全・整備を進めるにあたり、施設総量の適正化・効率化を図っていくことは、重要な視点であると考えます。</p> <p>・施設の性能・機能や将来的な需要など、様々な観点で保有施設の適正量を見極め、再編等によって総量の縮減を図り、将来負担を軽減するとともに、時代にあった最適な公共施設の供給を実現します。</p>

(5) 効率的な行政運営

～ 主な意見 ～

<p>・歳出削減について、人件費を含めて、全体のムダをなくす努力なしに、公共サービスの削減はあってはならないものだと考えます。</p>
<p>・個々の施設のマネジメントも大切ですが、全体を通して、優先度を判定できる機関（しくみ）が必要と考えます。道路や橋梁などの老朽化対策は是非とも必要と考えます。病院や住宅の供給など、民間でも運営可能な施設は多々あると思います。</p>
<p>・公共工事（水道、電気、ガス、道路）の長期的な計画を相互照らし合わせると、何回も同じ所を掘り返すことはないと思う。</p>
<p>・具体的で達成度が判定可能な年度目標を定め、監視するプロセスを定め、継続的にP.D.C.Aのサイクル（プラン、実行、チェック、アクション）を回すことが必要。</p>
<p>・常に民営化を念頭に、役所の仕事をもっと軽減するべき。</p>
<p>・一部の特定個人、団体が利用する施設では、利用料増額、会員制導入、負担金制など受益者負担を考えてみてはどうか。</p>
<p>・維持の足しに、施設命名権（ネーミングライツ）や施設の壁面などに広告を民間に募集する事も検討しては？</p>



～ 市の基本姿勢 ～

<p>・全体最適を実現するための公共施設マネジメントの手法及び体制を確立することで、ハード・ソフトの両面から、今後、さらに効率的・効果的な行政運営が行えるように努めていきたいと考えます。</p>

(6) 市民ニーズの把握

～ 主な意見 ～

・ 公共施設とは、市民が利用しやすくかつ「安全・安心・快適」な所だと思っています。市民みんなが利用しやすい対応をまずは徹底してください。
・ 働く人は殆ど公共施設を利用する機会がないので、もう少し考慮して頂けたらいいなあと思います。
・ 健常者と障害者では全く利用する施設が異なります。色々な立場の人の身になって、施設を減らすか減らさないかを考えてほしいと思います。
・ 施設間で巡回バスがあれば移動に便利だと思います。
・ 小学校間での施設の悪い悪いにバラつきがあるように思われるので、もう少し平等にして頂けたらと思います。
・ 公民館に駐車場、駐輪場が無い所が多々あるので、確保して欲しい。
・ 人口50万弱の市としては、スポーツ関連の施設が少ないように思う。学生の運動施設が足りないと感じます。
・ 保育時間の延長など、保育施設についてのサービスを充実して欲しい。
・ 中央病院が緊急時にいつでも利用できる施設になってほしい。保健所、福祉関係は施設が古く、暗くて、特に明るいイメージが必要だと思う。
・ 道に街灯をもっと立ててほしい。西宮は住宅街で細い道などが多いが灯りが少なすぎる。



～ 市の基本姿勢 ～

・ 市民のニーズを反映して、より良い行政のあり方を考え、市民満足度の向上をめざしていきたいと考えます。
・ 今後も、市民のニーズを把握し、市政に反映する機会を検討していきます。

(7) 情報発信の強化

～ 主な意見 ～

・地域の公共施設の場所、利用方法等、もう少し地域住民にPRしてほしい。
・もっと施設の存在をPRすべきと思う。例えば、市民館は使用料金が公民館より安価だが、知らない人が多いように思う。
・市政ニュースやHPに、公共施設の利用情報をもう少し詳しく載せて欲しい。
・居住地の近い公共施設の情報を常に発信してほしい。自治会の回覧板等に情報を入れれば良い。市全域のホールの演劇や音楽会の情報など。
・各施設の利用方法、催事情報を、個人レベルで分かるよう、各個家族にもっと分かりやすくしていただきたい。
・イベントや催しをもっと大きく宣伝すべきだと思います。駅や街中での掲示板、フリーペーパー、市政ニュースなど。
・山東・丹波自然の家のように他市にも西宮市の優れた施設がありますが、このような公共施設を市民にもっと利用してもらえるよう、PRか企画をたくさんしていただきたいと思います。



～ 市の基本姿勢 ～

・様々な機会や媒体を有効に利用してより多く、より広く市民に情報を周知し、共有化が図れるよう、広報・PR活動に努めていきます。

(8) サービス低下の防止

～ 主な意見 ～

<p>・利用者の少ない所も多い所も公共サービスの質、利便性は一緒にしてほしい。</p>
<p>・負担の軽減も大切なことだと思うので、多少の統廃合はいたしかたないと考えますが、西宮市は「子育てしやすい」「住みやすい」と評判が高く、サービスの質の低下が最小限であることを願います。</p>
<p>・施設の複合化によって無駄なく使えるかもしれないが、住居の近くにあってほしいと思う人も多いと思う。特に小さな子供を連れて行くときや高齢者が利用する時です。</p>
<p>・利用者の数で判断して施設を減らすと、人口集中している南部に比べて北部は不利です。年老いた人が電車を乗り継いでサービスを受けなくてもよいよう、サービスの拠点は減らさないで下さい。</p>
<p>・西宮市南部には公共施設が多くありますが、北部には少なく利用しにくく、他の市の施設を利用することがあります。単に利用者が少ないなどの判断を行わず、施設をより多目的に使うなども含めて考えて下さい。</p>



～ 市の基本姿勢 ～

<p>・施設の再配置を進めていく際には、個別の地域の状況等もふまえ、今までのサービスの質を落とすことがないように、十分に留意して取り組んでいきます。</p>

(9) 社会ニーズの把握

～ 主な意見 ～

<p>・画一的な公共施設の運用ルールではなく、多様化した社会のニーズに対応できる運用ルール、仕組みにしてほしい。</p>
<p>・東南海地震等大災害の可能もあり、その時の避難場所や根拠となるべき公共施設が必要なので、安全対策をきっちりして確保して欲しいです。</p>
<p>・市民の年齢層、生活にあわせた先見性のある公共施設の建設・利用計画で、経費の効率化を図ってほしい。</p>
<p>・世帯主が65歳以上の世帯は、(全国で)2025年には2005年の40%増の1901万世帯になる。高齢者だけの世帯が増えるなか、孤立を防ぐ交流の場を増やしていくべき。</p>
<p>・高齢者、障害者等社会的弱者の方に優しいまちづくりをお願いします。</p>
<p>・子どもを育てやすい環境を作って、子どもの人口を増やしていくべき。</p>
<p>・(学校等の施設について)今後少子化が進む中、土地等の問題もあるだろうが、中高六年校を建築するなどして、特色のある教育とともに施設の効率化が図れると思います。場合によっては託児施設と小学校の併設も良いのでは？</p>
<p>・高齢者だけに目をやるのではなく、若い20～30代の人々にとっても、この街に住みたいと思うようなまちづくりになることを期待しています。</p>
<p>・長寿命化にするなら時代の流れに対応できるデザインにすべきです。</p>
<p>・公共施設は市民の財産です。建てる限りはデザインや機能を充実させて、特にシンボリックにオブジェ等も配置し、快適で潤いのある街を演出して欲しいものです。</p>
<p>・古い施設も建替を促すより、古さを生かした歴史的な価値を大事にした計画が必要で、それにより市の価値を見出す事が大事。</p>



～ 市の基本姿勢 ～

<p>・時代の流れや要請をふまえ、社会のニーズにあった方法や考え方などを取り入れた施設整備を行うことで、市民満足度の向上に努めていきます。</p>

(10) その他

～ 主な意見 ～

<p>・どのような目的でこのアンケートを行い、どのように施策に生かして行くのかを、文書にしていきたい。また、公務に限らずカタカナを多用しているが、わかりやすい言葉づかいをお願いしたい（設問の文章のわかりにくさも同じである。とにかく文章が長すぎると思う）</p>
<p>・長寿命化は工夫により可能であろうが、面積縮減(施設廃止)は相手のある相談であり、すんなり行くものか？ 長寿命化によって単年度の費用が減っているように見えるが、本来であれば算入されるべき建替費用が繰り延ばされているのでは。50年から70年にした場合の総建替費用の差またはその為の維持費増は。また、建替にかかる費用の20%減少などという魔法のようなことが現実的なのか。 いずれにしろ、いろんな手法の組合せでないといけないのは、当然と思うので成果を期待したい。</p>
<p>・公共施設の損益を個別に市民に呈示してほしい。赤字の額と施設の継続の必要性の可否を市民の判断に委ねるべきではないか。</p>
<p>・西宮以外に勤めておりますので、市の公共施設を利用する機会はあまりありません。でも、自分の住む町は魅力的であってほしいと思います。</p>
<p>・市民の意向を取り入れるのは大変だと思いますが、期待しています。</p>
<p>・一部施設ではボス的な存在の人間がやたら目立ち面白くない所がある。</p>
<p>・西宮市では色んな事に取り組んでいますね。これからも年を取るばかりです。まだまだ高齢者が元気です。市の公共施設マネジメントの取り組みをして下さい。</p>
<p>・財政が不安なら、税金を納付しない弱者を救済するより、きちんと税金を納めている市民へのサービスを高めるべきだと思う。その方が、税収のあがる市民も増え、サービス向上につながると思う。</p>
<p>・平日は市外に出ているため、公共施設の利用はほとんどありませんが、市のこのような取り組みを知り、将来利用する際の参考にしたいと思います。</p>

問(その他): 余暇の過ごし方

自由回答を共通する内容で分類した上で、年齢層別に上位順に整理したところ、以下に示すような特徴が見られました。

20～40歳代ではショッピングが最も多く、20歳代では家で休養、読書、レジャー・旅行・観光、スポーツ等が上位を占め、30～40歳代では家族で外出・子どもとともに過ごす回答者の数が多いです。

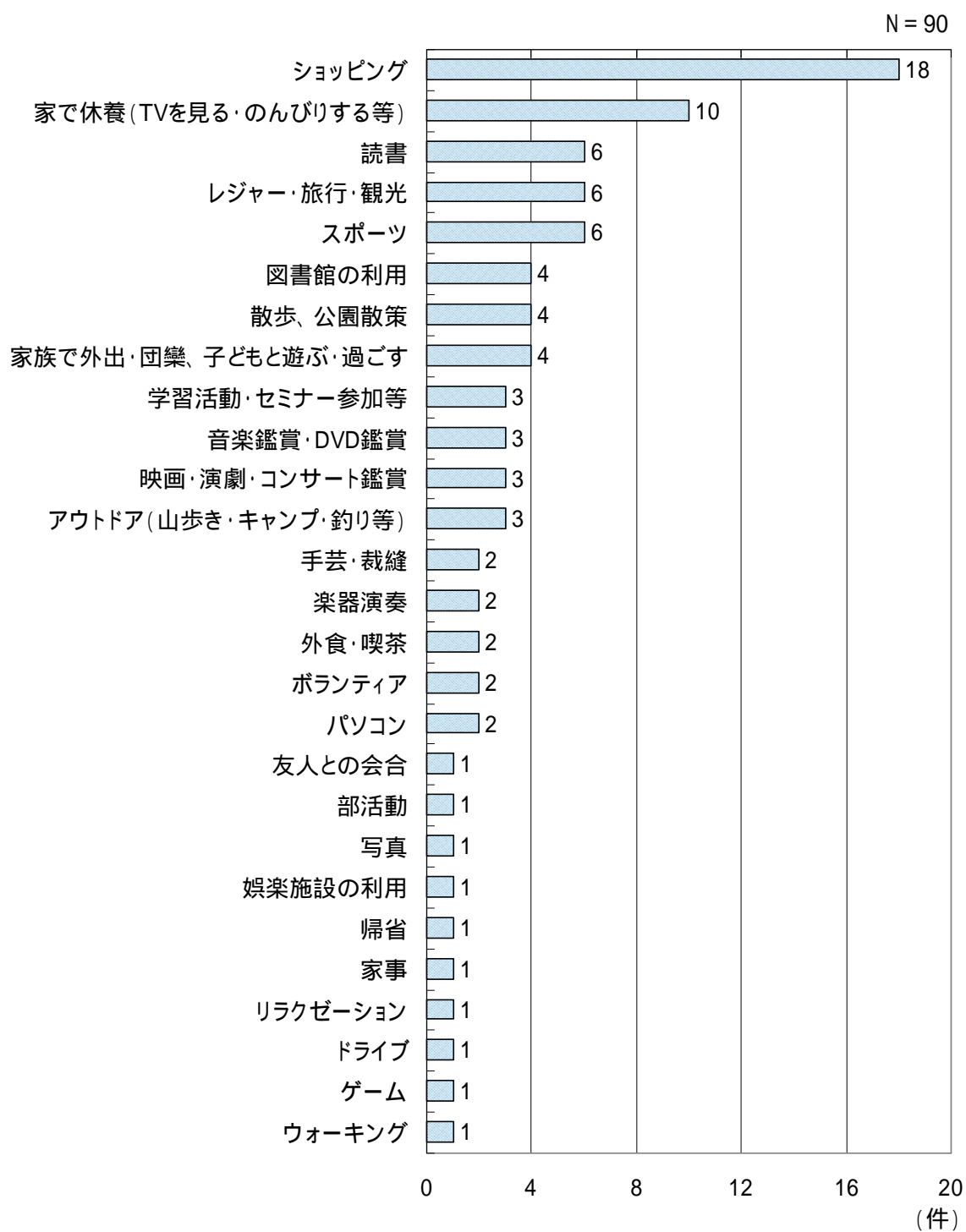
50～60歳代ではスポーツが最も多く、50歳代では読書、ショッピング、散歩・公園散策、レジャー等が上位を占めています。60歳代ではアウトドア(特に山歩き)の回答数が、他の年代と比べて多く、この年代より若い年代に比べて、サークル活動や習い事、ボランティア、地域活動等の参加者の数が多いです。

70歳代では、趣味のサークル・教養講座・習い事等及び、スポーツが最も多く、また、ボランティア活動の参加者も相対的に多いです。

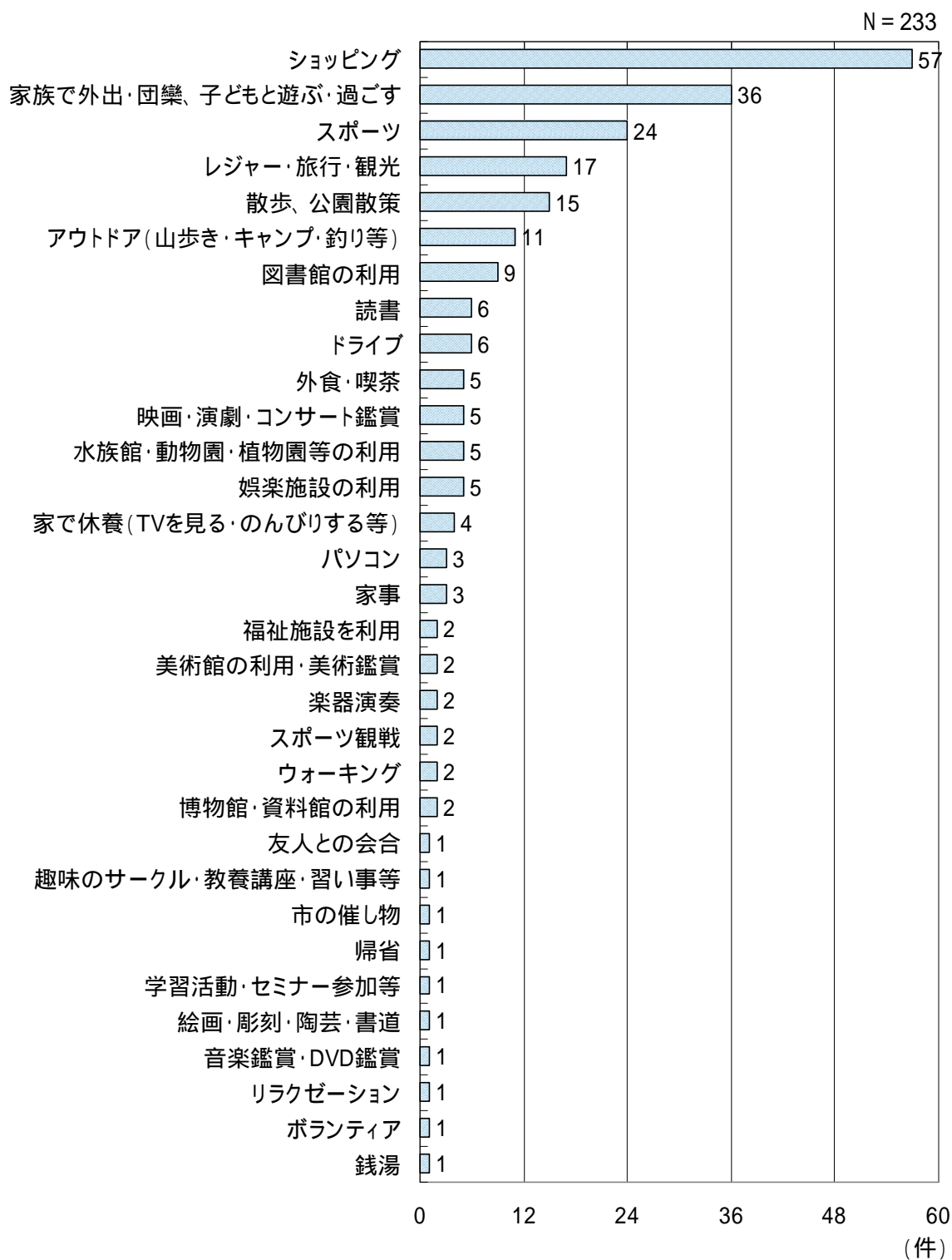
集計に際して、複数回答については、個別に1件としてカウントしています。

スポーツには、ジョギング、サイクリング、テニス、ジム通い、水泳、草野球、ゴルフ等、全般を含んでいます。

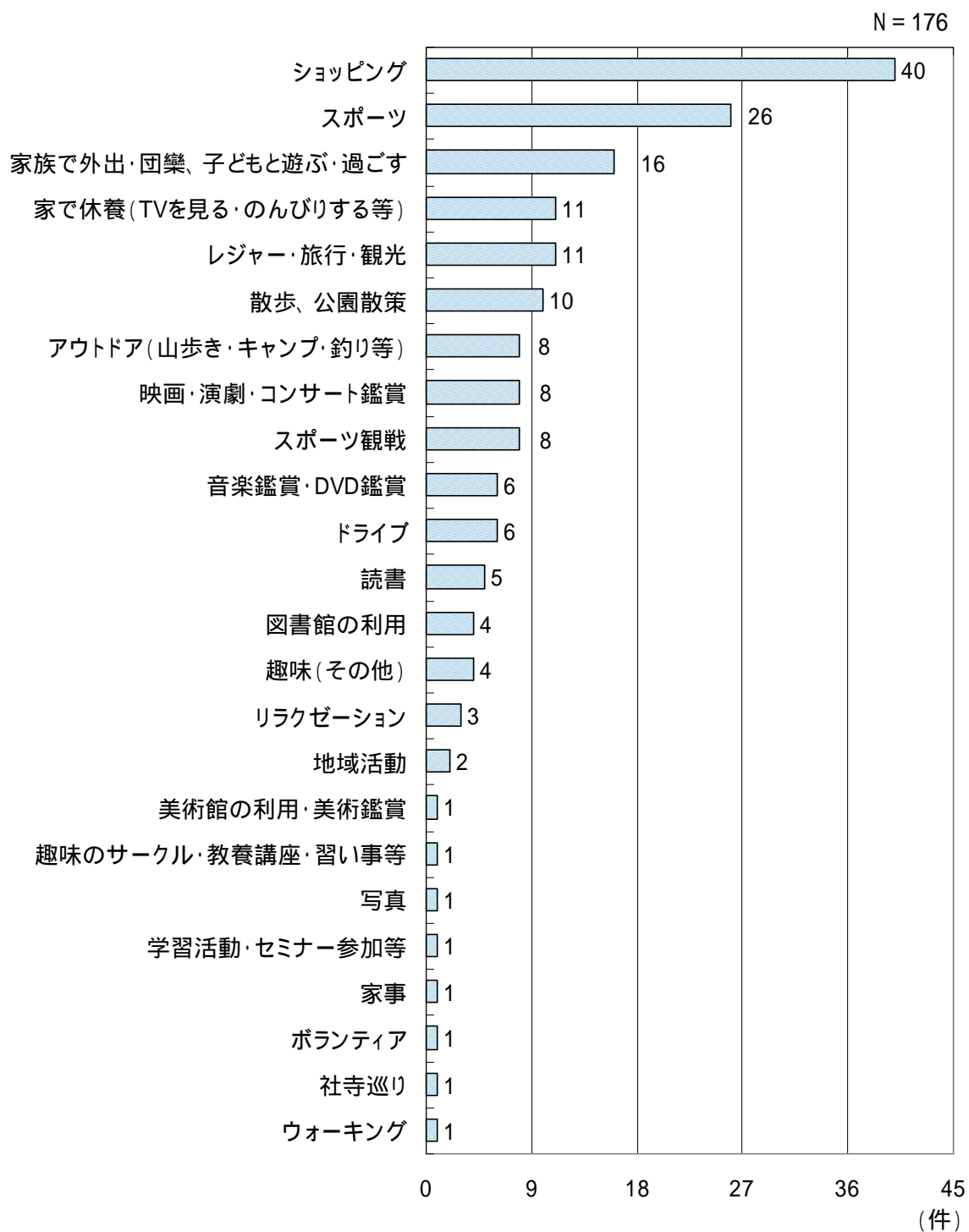
(1) 20 歳代



(2) 30 歳代

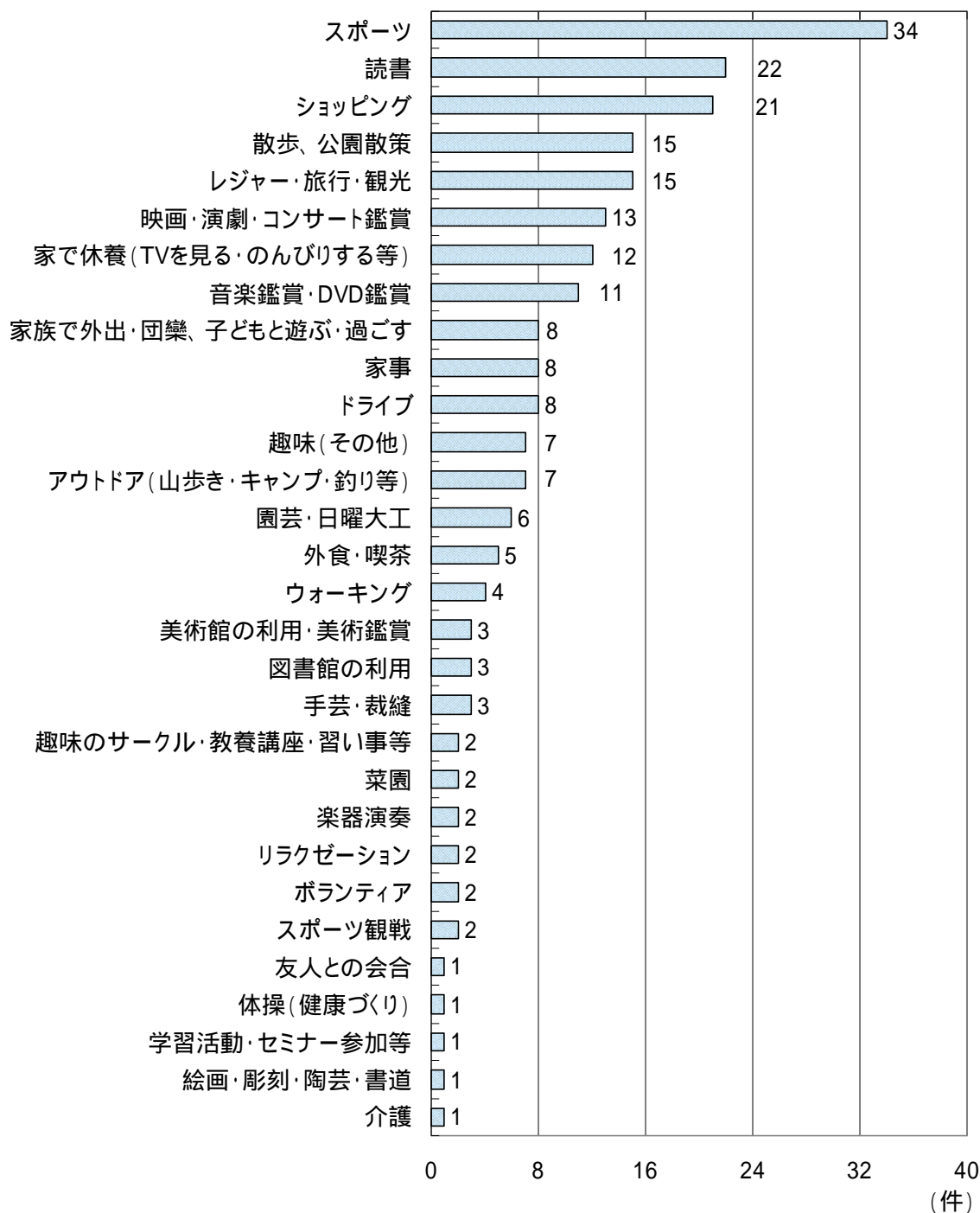


(3) 40歳代

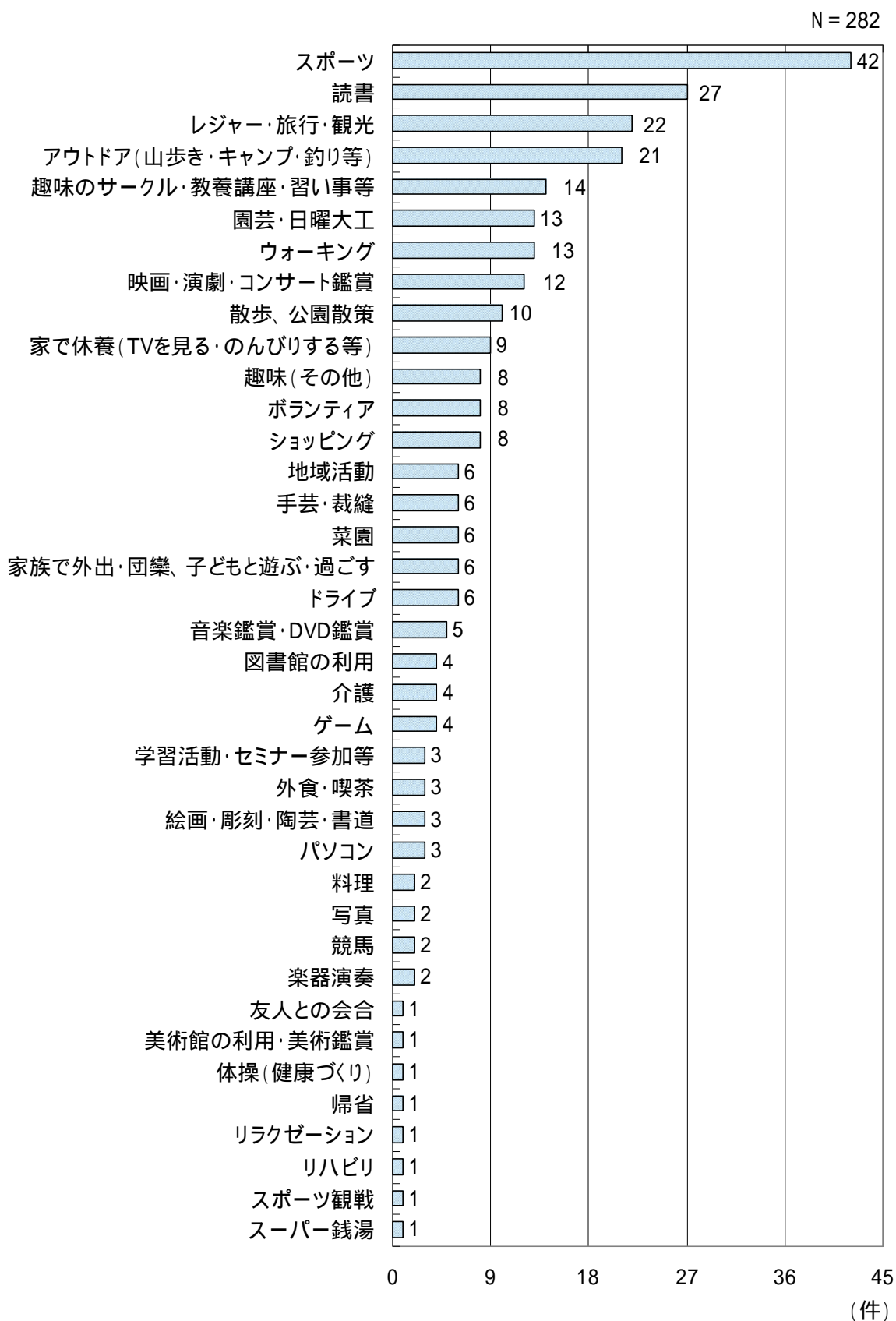


(4) 50 歳代

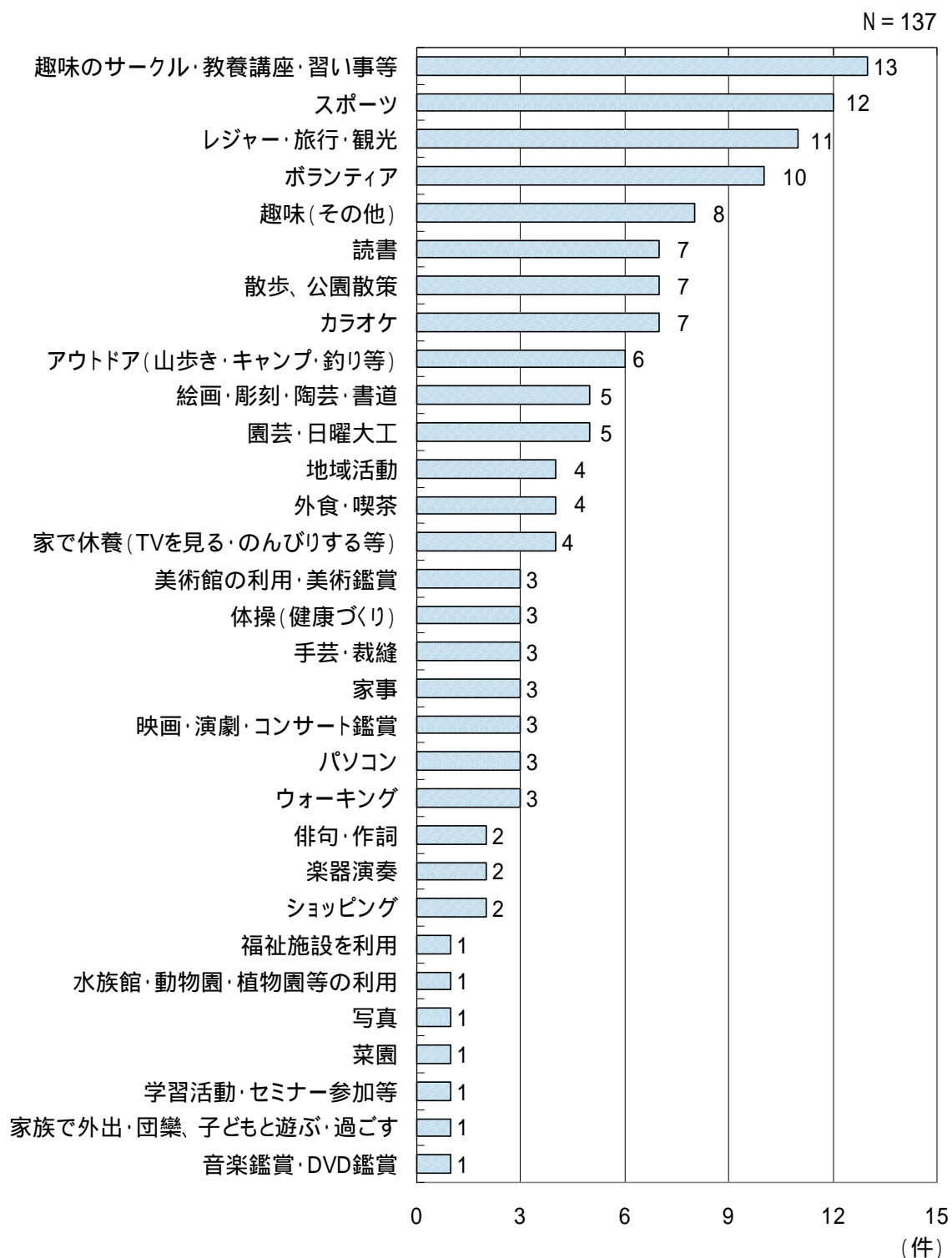
N = 222



(5) 60 歳代



(6) 70 歳代



4. 調査票

西宮市における公共施設マネジメントに関する 市民アンケート調査

調 査 票

このアンケートでは、市民の皆様のお考えを今後の検討の参考にさせていただくため、公共施設の利用状況や、公共施設マネジメントの考え方についてのご意見をおうかがいします。同封の「西宮市公共施設白書（概要）」をご覧ください。以上で、設問にお答え下さい。

回答は、この調査票に直接ご記入下さい。

問 1 西宮市では、公共施設全体の最適な運用をめざすために、「公共施設マネジメント」の検討に取り組んでいます。（同封の「西宮市公共施設白書（概要）」をご覧ください）
市がこのような取組みを行っていることをご存知でしたか。
最もあてはまるもの1つに をつけてください。（「その他」の場合は自由にお書き下さい）

1. 「西宮市公共施設白書」を見たことがある
2. 白書の存在は知らなかったが、市がこのような検討に取り組んでいることは知っていた
3. 市がこのような検討に取り組んでいることは知らなかった
4. その他 ()

問 2 問1で 1. または 2. に つけられた方にお聞きします。白書の存在または、市の公共施設マネジメントの取組みを どのような機会 で知りましたか。
自由にお書き下さい。

問3 あなたは過去1年間で、西宮市の公共施設を利用されましたか。

施設の種類別に、「1.利用している」「2.利用していない」のどちらか一つをつけて下さい。

「1.利用している」を選んだ場合、その目的について、あてはまる番号全てを選び、をつけて下さい。（「その他」の場合はかっこ内に自由にお書き下さい）

「2.利用していない」を選んだ場合、その理由について、次のア～コをご覧になった上で、あてはまる記号全てを選び、をつけてください。（「その他」の場合はかっこ内に自由にお書き下さい）

（利用していない理由：複数回答可）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ア.利用する機会がない | イ.どんな施設があるのか知らない |
| ウ.どんなサービスが利用できるか知らない | エ.どんな催しが開催されているか知らない |
| オ.利用の方法が分からない | カ.施設の場所が自宅や職場から遠くて不便 |
| キ.施設が古い、設備が整っていない | ク.申し込みが混んでいて利用しにくい |
| ケ.利用料金が高い | コ.市の施設以外の施設を利用している |

市役所・支所	1.利用している											
	<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目的</td> <td>1.各種証明書発行手続</td> <td>2.税金や保険料の納付手続き</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3.生活に関する相談など</td> <td>4.行政刊行物や資料の閲覧・入手</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5.仕事の打合せなど</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6.その他〔 〕</td> <td></td> </tr> </table>	目的	1.各種証明書発行手続	2.税金や保険料の納付手続き		3.生活に関する相談など	4.行政刊行物や資料の閲覧・入手		5.仕事の打合せなど			6.その他〔 〕
目的	1.各種証明書発行手続	2.税金や保険料の納付手続き										
	3.生活に関する相談など	4.行政刊行物や資料の閲覧・入手										
	5.仕事の打合せなど											
	6.その他〔 〕											
	2.利用していない 理由 ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク・ケ・コ その他〔 〕											
ホール	1.利用している											
	<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目的</td> <td>1.演劇や音楽会の開催・出演</td> <td>2.演劇や音楽会の鑑賞</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3.集会・セミナーなどの企画</td> <td>4.集会・セミナーなどの参加</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5.その他〔 〕</td> <td></td> </tr> </table>	目的	1.演劇や音楽会の開催・出演	2.演劇や音楽会の鑑賞		3.集会・セミナーなどの企画	4.集会・セミナーなどの参加		5.その他〔 〕			
目的	1.演劇や音楽会の開催・出演	2.演劇や音楽会の鑑賞										
	3.集会・セミナーなどの企画	4.集会・セミナーなどの参加										
	5.その他〔 〕											
	2.利用していない 理由 ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク・ケ・コ その他〔 〕											
博物館・資料館 市民ギャラリー	1.利用している											
	<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目的</td> <td>1.展示会の観覧</td> <td>2.講演会・講座などの参加</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3.市民ギャラリーの出展</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>4.その他〔 〕</td> <td></td> </tr> </table>	目的	1.展示会の観覧	2.講演会・講座などの参加		3.市民ギャラリーの出展			4.その他〔 〕			
目的	1.展示会の観覧	2.講演会・講座などの参加										
	3.市民ギャラリーの出展											
	4.その他〔 〕											
	2.利用していない 理由 ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク・ケ・コ その他〔 〕											

(問3の続き)

公民館・市民館 などの集会施設	1.利用している 目的 1.地域の集会、行事の企画 2.地域の集会、行事の参加 3.趣味・教養講座の企画 4.趣味・教養講座の参加 5.その他〔 〕
	2.利用していない 理由 ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク・ケ・コ その他〔 〕
図書館	1.利用している 目的 1.本や映像の閲覧・借出 2.調べ物(資料探しや調査研究) 3.自習 4.講座・催しの参加 5.その他〔 〕
	2.利用していない 理由 ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク・ケ・コ その他〔 〕
体育館	1.利用している 目的 1.競技大会の開催・出場 2.競技大会の観戦 3.競技の練習 4.レクリエーション 5.その他〔 〕
	2.利用していない 理由 ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク・ケ・コ その他〔 〕
福祉施設	1.利用している 目的 1.託児サービスの利用 2.子育てに関する相談・交流など 3.高齢者支援サービスの利用 4.障害者支援サービスの利用 5.福祉(育児・生活支援・介護等)ボランティアへの参加 6.その他〔 〕
	2.利用していない 理由 ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ・ク・ケ・コ その他〔 〕

福祉施設には、保育所、児童館、留守家庭児童育成センター、高齢者施設、障害者(児)関連施設の他、保健福祉センターなどがその他として含まれています。

問 4 西宮市の公共施設は、平成 21 年度末時点で 518 施設あります。そのうち、建築後 30 年を経過している施設の面積は全体の 40%を超えており、近い将来、それらの建替に必要となる費用は大変大きな額になることが予想されます。一方で、長引く不況下、今後も税収が伸び悩む厳しい財政状況が続くものと思われます。白書でも試算したように、今後の修繕・建替費用が膨大なものとなり、現状の市の財政で賄うことは大変厳しいものと考えられます。(「西宮市公共施設白書(概要)」1~2 ページ参照)

そのような中で市は、施設の長寿命化やより効率的な施設の利用を行い、また、施設の量を減らすなど、建替えや維持管理に関する費用を軽減することを検討していきたいと考えています。これらの手法の中で、あなたはどの方法が最も有効と考えますか。

あなたの考えに最も近い番号1つに をお願いします。

(「その他」の場合は自由にお書き下さい)

- 1.施設の長寿命化()を図り、建替費用を軽減すること
- 2.施設を効率的に利用し、維持管理費用を軽減すること
- 3.施設の量を減らし、維持管理や修繕・建替の費用を削減すること
- 4.その他

()

()長寿命化・・・通常、一定の期間使用すると建替える建物を、より一層適切に保全し、使用できる期間をさらに延ばすこと。

問 5 問 4 で説明した内容について、今後、施設の量を減らすことを検討するとした場合、その対象にするべきだと考える施設は、どのような施設でしょうか。

(「西宮市公共施設白書(概要)」3~4 ページ参照)

あてはまるものを最大で4つまで選んで番号に をお願いします。

(「その他」の場合は自由にお書き下さい)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1.公共性が低い(民間でも運営できる)施設 | 2.市民の需要に合わない施設 |
| 3.地域の景観を損なっている施設 | 4.交通の便が悪い施設 |
| 5.建物・設備が古くなっている施設 | 6.利用者が少ない施設 |
| 7.一部の個人・団体にしか使われない施設 | 8.利用されない空間を放置している施設 |
| 9.維持費用がかかりすぎる施設 | 10.同じような用途が重複している施設 |
| 11.その他 | |

()

問 6 市は、公共施設マネジメントの取組みについて、以下の選択肢にある内容をめざして
ますが、その中であなたはどのような効果を期待しますか。

あてはまるもの全てを選んで番号に をお願いします。

(「その他」の場合は自由にお書き下さい)

1. 公共施設を安全・安心・快適な状態に保つ
2. 公共サービスの質や利便性を高める
3. 経費の効率化をはかって、財政負担を軽くする
4. 省資源・省エネを追求して、環境に優しい社会をつくる
5. その他

()

問 7 その他、西宮市の公共施設マネジメントの取組みについて、ご意見等がございましたら、
自由にお書き下さい。

最後に、あなた自身のことについてお伺いします。

性別	1. 男性	2. 女性	
年齢	1. 20 歳代	2. 30 歳代	3. 40 歳代
	4. 50 歳代	5. 60 歳代	6. 70 歳代
職業	1. 給与生活者（勤め人） 2. 自営業 3. 有業主婦（臨時社員・職員・パートなど） 4. 専業主婦 5. 年金生活者 6. 学生 7. 無職 8. その他（ ）		
就業 / 就学地	1. 市内	2. 市外（ 県 市）	
家族人数	同居している家族人数（ ）人		
家族構成	1. 単身（ひとり暮らし） 2. 夫婦のみ 3. 夫婦とその未婚の子ども 4. 父親または母親とその未婚の子ども 5. 息子夫婦または娘夫婦と同居 6. その他（ ）		
お住まい	西宮市（ ）町 丁目は不要です		
居住年数	1. 5 年未満	2. 5～9 年	3. 10～19 年
	4. 20～29 年	5. 30～39 年	6. 40 年以上
余暇の 過ごし方	もしよろしければお書き下さい		

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

今回ご依頼の皆様は、市内にお住まいの 20 歳以上 75 歳以下の方の中から 3,500 人を無作為に選ばせていただいております。

本調査は無記名で行い、回答結果は統計的に処理いたしますので、個人情報、プライバシー等に関わる情報が公開されることはなく、また、本調査以外の目的に利用されることも一切ございません。